



# 富山市の遺跡物語



小竹貝塚に抱石葬で埋葬された縄文人

写真は、縄文時代前期（約5000～6000年前）に貝塚内に埋葬されていた人骨の検出状況です（調査の詳細はP.4～5参照）。1971（昭和46）年の富山県教育委員会による調査では、屈葬人骨1体（頭部は欠落）が発掘されていました。

今年度に発掘された人骨は、50cm四方に折り曲げて屈葬され、その腹部に扁平な大きな石を抱かせた状態で検出され、頭部及び足先は確認できませんでした<sup>\*</sup>。

「抱石葬」と呼ばれる縄文時代の埋葬方法で、全国でも粉洞穴遺跡（大分県）など数例でしか見つかっていません。抱石葬とは、靈的存在への信仰であるアニミズムに基づく埋葬形態で、死者の靈が生者に災いをもたらすことを恐れ、靈魂の再生を封じるために遺体に重い石を乗せたと考えられています。

埋葬の手順は、墓壙を掘り、人骨の大きさに合わせて墓壙内に粘土を敷きます。その上に遺体を置いて埋葬していたと考えられます。  
(堀内大介)

※人骨の鑑定分析を依頼している国立科学博物館人類研究部人類史研究グループ長・溝口優司氏より「机上発掘を開始したところ、無いと考えられていた頭の一部である上下顎骨が発掘された」と平成21年2月24日に報告がありました。

## 北代縄文広場この1年 -2008年度-

冬季特別展「早川荘作コレクション～越中地域考古資料から～」開催 平成21年1～2月

富山県考古学の草分けの一人である早川荘作さんが、生涯にわたって集めた考古資料を、富山県埋蔵文化財センターのご協力のもと1月20日（火）から2月1日（日）まで、展示しました。

生涯を通じて採集された資料は、昭和44年富山県に寄贈され、現在富山県埋蔵文化財センターに保管されています。コレクション総数1699点のうち、北代遺跡の資料はもっとも多く238点あります。

平成20年7月10日には、学術的な資料価値が高いことから、国登録有形文化財に指定されています。

今回の開催を記念し、「北代遺跡に残る父早川荘作の足あと」と題して、早川荘作さんのご子息早川清さんにお父さんの想い出などをご講演いただきました。

見学された方々は、ほぼ40年ぶりに北代遺跡に里帰りした資料に、感慨深げでした。  
縄文冬まつり 今年も盛大に開催！

平成21年1月

地元自治振興会主催の「縄文冬まつり」は、1月24日（土）、時折雪が強く降るなか開催されました。

毎年恒例の左儀長、もちつき、bingoゲーム、的当てゲームが行われ、冷え切った空気を吹き飛ばすほど盛り上がりました。

富山市ファミリーパークのご協力のもと、いのししの肉を使った「縄文なべ」に舌鼓をうち、体もこころも芯から温まりました。

今年はファミリーパークの人気者「里ノ助くん」も登場し、子どもたちに大人気でした。

解説ボランティア研修を実施。

平成20年1～9月

北代縄文広場の解説ボランティアが新しいメンバーを迎える少しでも早く北代縄文広場に親しんでいただけるよう、平成20年1月から9月まで7回にわたってボランティア研修を実施しました。

このボランティア研修のうち、7月5日と9月20日の2講座を、地元自治振興会の「ふるさとづくり講座」と連携して地域の方々に開放したところ、多数の参加がありました。

講演会の参加者は、縄文時代の食生活や科学分析の発達による最新の研究成果について興味を持ち、理解を深めておられました。

（細辻嘉門）



展示に見る早川清さん



子どもたちに取り囲まれる「里ノ助」くん



「ふるさとづくり講座」のようす

## 王塚・千坊山遺跡群国指定記念「婦負の国 弥生フォーラム」

特別講演・フォーラム

2008.10.25 土 13:30~16:30

富山市婦中ふれあい館集会ホールにて、王塚・千坊山遺跡群国指定記念「婦負の国 弥生フォーラム」を開催し、県内外から120名を超える参加者がありました。当日のプログラムは次のとおりです。

□特別講演 「弥生の巨大集落は“都市”であったか?

—婦負のクニの巨大遺跡群を考える前提として—

講 師 寺沢 薫氏（奈良県立橿原考古学研究所）

□フォーラム 「ムラの景観 一集落と墳墓—」

第1部【事例報告】越 後 佐藤 慎氏（妙高市教育委員会生涯学習課）

越前・加賀 堀 大介氏（越前町教育委員会生涯学習課）

越 中 細辻嘉門氏（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）

第2部【討 論】司 会 高橋浩二氏（富山大学人文学部）

パネリスト 佐藤 慎氏（妙高市教育委員会生涯学習課）

堀 大介氏（越前町教育委員会生涯学習課）

細辻嘉門氏（富山市教育委員会埋蔵文化財センター）

□展 示 史跡王塚・千坊山遺跡群 解説パネル・写真の展示

今回のフォーラムでは、北陸各地域の弥生時代の集落の事例を取り上げて、その比較を通して婦負のクニの特色を探りました。

特別講演で、寺沢薫氏は日本で最初の都市について言及され、中国の都市形成史を参考に、中国の都市である「殷墟」と倭國の中心である「纏向遺跡（奈良県桜井市）」が非常に似ている点や、都市の定義の諸条件が揃っている点などから、「纏向遺跡」こそが最初の都市であると推測されました。

一方、弥生時代に各地域に存在した巨大集落については都市とは考えず、都市形成以前の地域国家にこうした都市的要素を持つ集落が存在したということが、日本の都市形成史上、大きな意味があると指摘されました。また、地域国家がこうした都市的集落をどのように生み出していくのかについては各地域で把握していく必要があり、「史跡王塚・千坊山遺跡群」はそれが分析できる非常に有効な資料であると評価されました。

その後、フォーラム第1部の事例報告では、佐藤慎（越後）、堀大介（越前・加賀）、細辻嘉門（越中）の各氏が、弥生時代後期から古墳時代初頭における北陸の集落のあり方や時代背景を報告されました。

続いて高橋浩二氏を司会とした第2部の討論では、この時代に特徴的な高地性集落について各地域の事例や性格の比較検討がなされるとともに、各地域の集落と首長墓の動向からそれぞれの首長の統括範囲（国の範囲）が推測されました。



特別講師(寺沢薫氏)



フォーラム第2部

(大野英子)

## 明らかとなつた貝塚の状況

### 1. 調査のあらまし

小竹貝塚は、具羽山丘陵北端に広がる台地の北西側山裾から平野にかけての位置に立地し、縄文時代前期（約6,000～5,000年前）の縄文海進の際に広がった旧放生津潟べりに形成された貝塚です。

貝塚の所在は昭和20年代ころから知られ、過去の試掘や発掘調査、新鍛治川承水路における採集や自然科学的分析によって遺跡の概要が明らかになってきています。

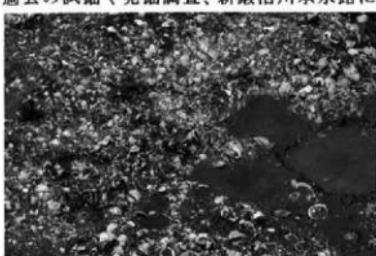
ボーリング調査等の結果から、貝層は弧状に広がり、その範囲は東西最大50m、南北90m以上です。貝層は水田下約1.5m～2.5m（標高1.5～0.5m）に堆積していることが確認されています。貝層の南側には高台があり、さらに南側に土器包含地点が確認されています。この高台に居住域があり、それを囲むように貝塚が馬蹄形を呈して形成されると推測されていました。

### 2. 貝層の範囲と堆積状況

今回の調査は、新鍛治川改修工事に伴う工事立会調査として行なわれました。その結果、貝層の範囲が、新鍛治川右岸で南北幅15m、左岸で南北幅29m、厚さが最大厚1.5mと分かりました。これは1972（昭和47）年の市教委のボーリング調査の成果と一致しました。貝層は高台から北側の斜面（谷）部に向かって斜めに堆積している状況が確認できました。貝層が堆積する前には黒褐色粘質土が堆積しており、その中からも縄文土器やイノシシ・イルカなどの歯骨が出土しています。貝層形成前から谷への廃棄を行なっていたと考えられます。

### 3. 初めて確認された居住域の遺構

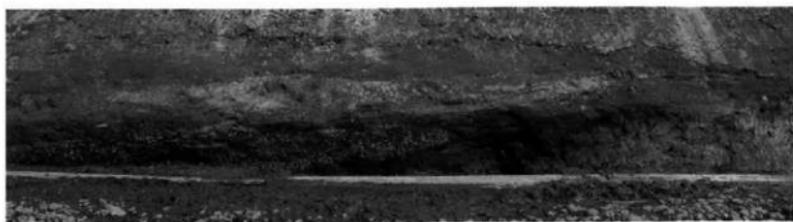
居住域があると推測されていた高台において、土坑、集石遺構等の遺構が初めて確認され、居住域の存在が裏付けられました。集石遺構は、掘り込んだ穴の中に、焼けて割れた礫が詰まっています。葉でくるんだ食物の間に、葉で包んだ焼石を挟み、それを完全に葉で覆って蒸し焼きにする石蒸し調理（アースオーブン）用の施設と推定されます。



貝類出土状況



集石遺構検出状況



貝層の堆積状況（右岸）

※右側が上流側

#### 4. 貝塚に廃棄された遺物

貝塚の貝は、付近の土壤をアルカリ性に変える働きをしたため、日本の酸性土壤では残りにくい獸骨や魚骨が何千年も保存されてきました。

本貝塚に廃棄された貝類はシジミ貝（ヤマトシジミ）が主体で、大タニシを少量含みます。その他の貝としては、サザエ、ハマグリなど海産の貝が極少量あります。

貝塚からはイルカ、シカ、イノシシ、イヌなどの獸骨、クロダイ、スズキなどの魚骨、鳥骨が出土しました。

貝層の中からは大量の縄文土器の他に、石器（磨製石斧、石槍、石礫、石錐、石魁、石鍤、圓石、石皿など）、骨角器（ヤス、髪針、釣針など）、装身具（玦状耳飾、石製垂飾、歯牙製垂飾、土製垂飾など）が出土しています。

#### 5. 貝層内に埋葬された人骨

新総治川左岸南側の貝層縁辺部で埋葬された人骨を2体発見しました。1体はほぼ完全な頭蓋骨でした。もう1体は、県内で初めて抱石葬での届葬が確認されました（表紙P1参照）。

1971年（昭和46年）に見つかった人骨も今回の人の骨の近くで発見されたとみられ、居住城側の貝層縁辺部が大規模な墓域として利用していた可能性があります。

#### 6. 貝塚のその後

今回の調査では、北部で貝層を抉るよう大量の木片を含む層、砂層が確認されました。木片を含む層からは古墳時代初期の土師器が出土しています。これは、古墳時代の初め頃に、貝塚の形成されていた谷部に河川が流れている痕跡であると考えられています。

1971年の調査所見では、「古墳時代の生活が始まる直前の二回にわたって冠水したことがうがいが知れる」と報告されています。また、新総治川にかかる橋（調査区の南東50m）付近からは、木杭を打ち込んだ古墳時代の堰（しがらみ）が検出されています。

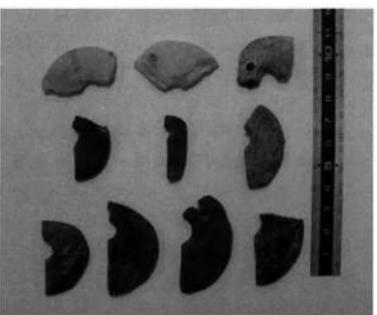
（堀内大介）



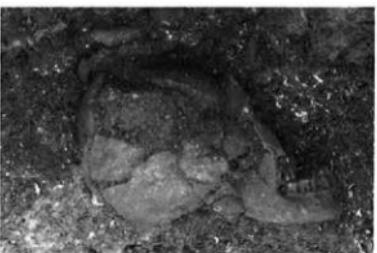
イルカ頭骨出土状況（川底）



骨角器（髪針）



玦状耳飾



頭蓋骨出土状況（左岸）

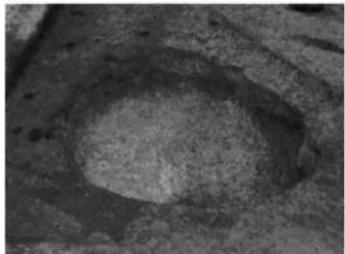
## 古代の大規模生産域

## 北押川B・北押川C・池多東遺跡

北押川B遺跡、北押川C遺跡、池多東遺跡は、境野新崩状地に位置し、東から南は真羽山丘陵、西は射水丘陵を望む場所にあります。この付近では近年、富山西インターチェンジや企業団地の造成に伴って多くの発掘調査が行われており、奈良・平安時代の大規模な生産域であったことが明らかになりつつあります。

### 1. 粘土採掘穴と炭窯—北押川B遺跡—

北押川B遺跡では、平安時代（約1200年前）の粘土採掘穴が2基見つかりました。大きさは約3mです。穴は深さ約80cmのところで灰白色の粘土質となります。ここから壁を横掘りして粘土を探っていたようです。この粘土採掘穴のすぐ北では、昨年度の調査で炭を焼くための炭窯が見つかっています。他の遺跡でも炭窯と粘土採掘穴はセットで見つかることがあります。粘土採掘穴で採った粘土は、炭窯を作るときの壁や天井の材料になったと考えられます。



北押川B遺跡の粘土採掘穴

### 2. 焼壁土坑による製炭—北押川C遺跡—

北押川C遺跡では、奈良時代（約1300年前）の焼壁土坑が見つかりました。焼壁土坑は壁や底面が赤く焼けた穴で、簡易な炭焼施設と考えられています。実際、穴の中からは大量の炭が見つかることがあります。本遺跡では、過去の調査も含めると20基余りの焼壁土坑が見つかっていますが、他には生産に関係する遺構は見つかりません。



池多東遺跡の炭窯

### 3. 炭窯と落し穴状遺構—池多東遺跡

池多東遺跡では、平安時代の炭窯（約1200年前）が1基見つかりました。窯で焼かれた炭は、主に製鉄炉で鉄を作るときの燃焼材になったと考えられます。調査では輪の羽口や鉄滓など製鉄に関係する出土品もあることから、周辺に製鉄炉があった可能性があります。

また、池多東遺跡では落し穴状の遺構が8基見つかりました。長さ1m前後、深さ1m前後の穴で、約5m間隔で並んでいます。落し穴状遺構は周辺の遺跡でも見つかっていますが、出土品がほとんどないため時期が不明です。その用途については、文字通り、動物を獲る縄文時代の落し穴とする説や、井戸とする説、戦国時代の戦略的な落し穴とする説などがありますが、確実なことは分かっていません。

### 4. 生産遺跡群の性格

3遺跡に近い向野池遺跡では庇付きの大型建物跡が見つかり、生産を管理する公的な施設と考えられています。周辺の生産遺跡群は、政治的な管理のもとでどのような生産施設を作り、何を生産するかといったことが決められていたと考えられます。

（野垣好史）

## いたちがわ 龜川左岸の古代大規模集落

## かみしんば 上新保遺跡

### 1. 調査のあらまし

上新保遺跡は、富山平野のほぼ中央部に位置し、龜川左岸の微高地に立地しています。標高は約35mです。本遺跡ではこれまで数回にわたり発掘調査が行われており、古代・中世の集落跡であることがわかっています。

今回の調査では、これまでの調査とほぼ同時代で、奈良時代後半～平安時代前半の堅穴住居28棟、掘立柱建物8棟、古代～中世の川跡などが見つかりました。

### 2. これまでの調査成果

平成8～11年に、今回の調査区の南側で発掘調査が行われました。古代の集落は7世紀初頭～前半にかけて出現し、8～9世紀まで営まれた集落遺跡です。堅穴住居、掘立柱建物、烟跡などが見つかっており、堅穴住居は119棟もあります。

出土遺物には、須恵器、土師器、墨書き器（「吉女」「平」「真」）、印章形石製品（印面には「夢丸」と彫られている）、鉄製品などがあります。堅穴住居や掘立柱建物が検出された西側には烟跡が見つかっています。

中世の集落は、12世紀後半～15世紀後半にかけて存続し、13～14世紀が集落の中心時期です。掘立柱建物や井戸、溝などが見つかっています。

### 3. 古代の建物検出

堅穴住居の平面形は方形で、一辺3～4m四方の小型のものが多く、住居内にはカマドや貼り床など内部施設が残っている住居もありました。また、重なっている住居もあり、建て替えが行われています。

掘立柱建物は、調査区のほぼ中央西側に集中しています。掘立柱建物も堅穴住居同様に建て替えが行われており、建物を建てる場所決めていたと考えられます。集中区の西端には、2間×2間（3m四方）の縦柱建物があり、倉庫と考えられます。また、4間×2間以上（東西10m、南北4m以上）の大型の掘立柱建物も見つかっています。柱穴の規模は一辺が約70cmの方形で、深さは40～50cmです。

出土遺物には、須恵器や土師器、墨書き器、鉄滓、砥石などがあります。

### 4. 古代の大規模集落

本遺跡の堅穴住居の棟数は、これまでの調査とあわせると約150棟になり、古代の大規模な集落遺跡となりました。また、大型の掘立柱建物はこの集落の中心となる建物と考えられます。

本遺跡から南西約4kmには任海宮田遺跡（奈良～平安時代）があり、堅穴住居約200棟が確認されています。その遺跡に匹敵する大規模集落です。

古代において、両遺跡の周辺の開発が盛んに行われ、本遺跡は開発の中心的な役割を担った集落のひとつであると考えられます。  
(堀沢祐一)



掘立柱建物群（左が北）

## 中世「米田保」の関係集落か

よねだ だいかく  
米田大覚遺跡

### 1. 調査のあらまし

米田大覚遺跡は、富山平野の北に位置し、神通川の低位段丘上に立地します。標高は約8mです。本遺跡では、平成7~8年に発掘調査が行われ、平安時代の官衙(役所)遺跡と考えられています。当時、米田地区は新川郡に属しており、「新川郡家」(新川郡を統治する役所)跡と推定されています。

今年度の調査では、前回の調査とほぼ同時代の井戸跡3基と溝跡、中世の溝跡約15条、土坑などが見つかりました。

### 2. 古代「新川郡家」推定地

今回の調査区の北東約250mのところで、発掘調査を行いました。その結果、掘立柱建物32棟を確認しました。これらは4群の建物群にわかれ、その1群には、庇付き建物(正殿)と長舎建物(脇殿)がL字形に並び、「新川郡家」の郡庁域(中心施設で政務や儀式、饗宴をおこなうところ)と推定されています。

出土遺物は、墨書き土器、石帯の帶飾り、緑釉陶器、灰釉陶器、風字碗、陶製の橋などが出土地しています。なかでも、墨書き土器は208点あり、富山県内で3番目の出土点数を誇ります。墨書き土器には「井」「室」「公麻呂」「田邊」「道公」などと書かれています。

### 3. 中世の花瓶出土

平安時代の井戸跡は3基見つかっており、そのうちのひとつには井戸の底に木製の井戸枠が残っていました。長さ約130cm、幅約7cm、厚さ約6cmの角材を四角く組みその外側に継板をたてていたようです。また、溝跡から緑釉陶器が出土しています。

中世の溝跡は主な南北方向に流れています。なかには屋敷地を区画する溝も含まれていると考えられます。

遺物は、中世土師器や珠洲、青磁、白磁、金属製品(青銅器:仏具である花瓶)、曲物や下駄などの木製品、板碑などがありました。

なかでも、土坑から完全な形で出土した花瓶(高さ約21cm)は注目されます。花瓶は花を仏に供養するための供養具です。

### 4. 中世「米田保」か

今回の調査では、古代の井戸跡や溝を確認し、「新川郡家」の領域が広がっていたと考えられます。また、中世の溝や土坑なども確認され、中世の米田に所在した「米田保」<sup>※</sup>に關係する遺跡とも推定されます。米田

が、古代から中世にかけて地域の中心的な場所であったことを物語っています。

※米田保は、「本郷文書」に貞治6(1367)年から永正6(1509)年にかけて、本郷氏が伝領(所領などを受け継いで領有すること)したとされています。

(堀沢祐一)



平安時代の井戸跡



花瓶出土状態

## 城内で初めて見つかった井戸

### 1. 城内で見つかった戦国時代の井戸

今回、本丸の北東部で行った試掘確認調査で井戸が見つかりました（右写真）。富山城内で井戸が見つかるのは今回が初めてです。

今回確認したのは井戸の一部のみですが、深さは 1.6m 以上あることがわかりました。元々井戸の内部には木や石で組んだ井戸枠があったと思われますが、さらに下層に存在するためか調査では確認できませんでした。

井戸の中からはかわらけ、珠洲、瀬戸美濃、越中瀬戸、青磁、白磁、青花、鉄製品といった多くの出土品がありました。これらの出土品から、井戸が掘られ使用されたのは 16 世紀中頃の戦国時代と考えられます。この時期は神保長職が最初に富山城を築いた頃にあたり、富山城の最も初期に使用されていたものと考えられます。

井戸は 17 世紀初め頃には埋まったと考えられます。慶長 10 (1605) 年に前田利長によって富山城は大規模な改修が行われ、近世城郭として整備されました。このときの整備の際に埋められたかもしれません。

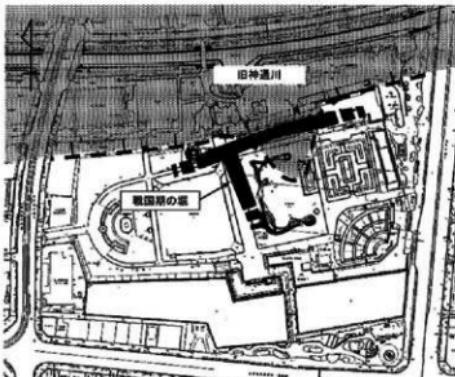
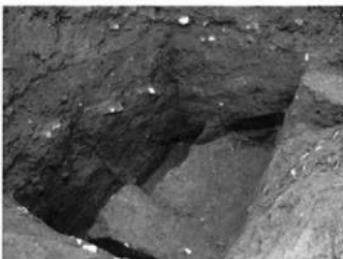
### 2. 本丸北部の旧地形

本丸北中部では、戦国時代の富山城成立期頃の造成面が確認されました。それより下層は 1.4m 以上掘っても基盤層が確認できませんでした。このことから富山城の築城前、この付近の地形は谷状に抉れていたと推測されます（右図）。明治時代以前は、富山城のすぐ北を神通川が流れています。神通川の氾濫によってこうした地形ができると考えられます。谷状地形は富山城を築くときに埋め立てられ、その後、城の整備がなされたのでしょう。このことは谷状地形の中に入る場所で戦国期の堀が見つかっていることからも裏付けられます。

### 3. 寛文期の石垣か

試掘確認調査とあわせて、石垣の測量調査も行いました。今年度は搦手北石垣の東面（現在、佐藤記念美術館が建つ石垣の東面）を調査しました。

調査の結果、石垣の一部に布積という積み方がみられました。布積は横方向の石の列をほぼ揃えて並べる積み方です。布積は、富山城の表口に当たる大手筋の石垣にもみられます。この大手筋の石垣は寛文初年頃（1661 年頃）の築造と推定されています。このことから今回調査した部分も富山城で最も古い寛文期の石積の可能性があります。富山城の石垣では数少ない江戸時代の石積を残す部分といえるでしょう。（野垣好史）



本丸北部の旧地形の推定 (1:4000)

## 武家屋敷と町屋を区画する背割下水

富山城跡

### 1. 調査のあらまし

調査地は、富山城下町の一部と推定されています。民間開発に先立つ発掘調査で、武家屋敷と町屋とを区画する背割下水、大溝、井戸、自然流路、土坑、ピットなどの遺構を確認しました。

### 2. 町割を定める背割下水

調査区の南側では、武家屋敷と町屋との境に設けられた幅約3.5mの東西方向に延びる背割下水を確認しました。背割下水は、少なくとも近世（18世紀末～19世紀代）から近代（19世紀半ば）まで、同じ場所で改修されて使われていたことがわかりました。

近世の背割下水は、二面護岸で石積みは両側面とも水平に積み上げられています。南側面が底面に胴木を並べ、上に径40～50cmの大の礫を用いて垂直に積んでいるのに対し、北側面では径20cm～30cmほどの礫を用いて斜めに積んでいるという違いがあります。

出土遺物は、伊万里・唐津などの陶磁器が多くを占めます。

近代の背割下水は、近世の背割下水を1mほど埋めて改修し築かれています。三面護岸で石積みは両側面とも扁平な石を使って斜めに交互に積んで矢羽積み<sup>やひづみ</sup>にし、底面には貼り石を敷き詰めています。底面の貼り石は隙間が少なくなるよう一部を打ち欠いてあります。石積みの構造が近世と近代では違っています。

出土遺物は近世段階の遺物も含みますが、近代～現代の遺物がほとんどを占め、20世紀半ばに埋め戻されたと考えられます。

以上のことから、現在総曲輪フェリオの建っている場所の発掘調査（2006年）で確認された背割下水が更に西側へと続いていることが明らかになりました。

### 3. 当時の生活を明らかにする数々の遺構

武家屋敷地側で4本の大溝を確認しました。東西方向に延びる2本の大溝は底面が平坦な箱状から底面がV字状へと作りかえられています。

出土遺物はかわらけと珠洲に限定され、中世まで遡る可能性があります。中世富山城の位置や構造を解明する上で、重要な手がかりとなります。

井戸は11基確認されました。明確に石積みと判断できる井戸が1基、石積みを崩したと想定される井戸が3基、桶を2段に積み上げた井戸が1基あり、他は素掘りの井戸と考えられます。

ごみ穴と思われる土坑からは、土器や木製品が一括して出土したものもあり、富山県の幕末～近代にかけての良好な一括資料となる可能性があります。

今回の調査では、絵図に描かれた町割を実証する成果となり、富山城下町を解明するうえで良好な資料を得ることができました。

（細辻嘉門）



背割下水（西から）

## 白岩川右岸の農村集落

## 水橋上砂子坂遺跡

水橋上砂子坂遺跡は、白岩川の支流である畠田川右岸の扇状地に立地します。発掘調査では、戦国時代（約500年前）の大溝跡や大溝埋没後に作られた区画溝と堀立柱建物、江戸時代（約400年前）の土坑・構等を確認しました。

大溝からは当時使用していたと思われる灯明皿、漆器碗などが出土しました。タモ網と考えられる弓状木製品も出土しており、何らかの漁撈を行っていたと考えられます。獣神でもあり、転じて漁民の信仰の厚い諏訪神社が鎮座しています。

羽口片（炉の火力を高めるための送風管  
破片）や鉛錠（鍛冶の際に出る残り滓）などが出土しており、小鍛冶を行っていたと考えられます。（堀内大介）



戦国時代の大溝・区画溝（奥は立山連峰）

## 婦中地域で分布調査を実施

## 分布調査

富山市域のうちで分布調査が実施されていない地域について、18年度から6か年の予定で分布調査を進めています。

20年度は、富山市北西部に位置する婦中地域の音川地区、古里地区の山側（山間部を除く）を対象として実施しました。

調査は20年10月初旬から12月下旬まで行い、地形や田・畑の現況を確認し、遺物を探集しました。また五輪塔、板碑など石造物の確認も行いました。

探集した主な遺物には縄文土器、石籠、石鍤、打製石斧、磨製石斧、回石（縄文時代）、土師器（古墳時代）、須恵器、土師器（奈良、平安時代）、珠洲、青磁、銅錢、砥石（鎌倉～室町時代）、越中瀬戸、瀬戸美濃（江戸時代）などがあります。

調査により音川地区の外輪野、牛滑、道島、葦原などで新たな遺跡を13か所確認しました。また周知の埋蔵文化財包蔵地18か所の範囲、名称を見直し、婦中地域の遺跡数は143か所になりました。

調査成果については遺跡地図に掲載し、21年4月に公開します。（小林高範）



分布調査の様子



分布調査の主な探集遺物

## 工事立会調査から見えた富山城跡

とやまじゆうし  
富山城跡

### 1. 工事立会調査とは

試掘調査や発掘調査を行うことが困難な狭い範囲での工事、たとえば上下水道や電力・通信施設の埋設管を布設する工事、道路の拡幅工事、河川改修工事、樹木の抜根などの土木工事と並行して実施する調査が工事立会調査です。

富山市内では、年間を通じて、約400～500回に上る工事立会調査を実施しています。

調査は延長数百mに及ぶこともあります。職員が掘削現場に立会い、土器などの遺物や溝、柱穴、井戸などの遺構がみつかった際には、工事を一時中止し、写真や図面に記録します。

調査区の幅が50cm程と狭く、そこから得られる情報は限られていますが、ときには地域の歴史を解明する上で貴重な成果が得られる場合もあります。

### 2. 大手モール地下約1.3mに石積遺構を確認

路面電車新設工事に先立ち、大手町から越前町にかけての通称大手モール内で、地下に埋設されている通信施設や下水道などの管を移設する工事が本年度から始まりました。その工事立会調査では地下約1～1.3mから富山城に関係する数多くの遺物や遺構がみつかりました。

#### ① 大手門枠形の石積遺構

市民プラザの南約10mの歩道内で、矢穴の痕跡がみられる花崗岩の割石（118cm×55cm、厚さ28cm）を基礎に面取りした大きな川原石を積んだ石積が確認されました。江戸期の絵図と照合させると、その位置には、大手門があり、枠形と呼ばれる通路は石積みで作られていました。今回みつかった石積は外堀に面した枠形の南壁面の一部分と推測され、大手門の位置がほぼ特定できました。

#### ② 石敷き水路

①の遺構がみつかった南約5mの位置に東西方向に延びる幅約60cmの石敷き水路遺構が確認されました。外堀が埋められた後、幕末期以降に造られたようです。本年度実施された旅籠町の発掘調査では、石敷きの背割下水が確認されており、関連が注目されます。

#### ③ 背割下水

越前町交差点から北へ25mの東西両歩道下から、総曲輪フェリオ建設に伴う発掘調査でみつかっていた背割下水遺構の延長部分が確認されました。大手通りに面した武家敷と町屋敷の境界を特定することができました。

(鹿島昌也)



①大手門枠形の石積とみられる遺構がみつかった工事立会い



②石敷き水路

## 発掘調査概要報告

### 古代・中世の開墾集落

経力遺跡

#### 1. 調査のあらまし

経力遺跡は富山市経力地内（リバーパーク珠洲東町）に所在し、神通川の支流である土川と二俣川に挟まれた自然堤防上（標高約40m）に立地する弥生時代～中世までの複合遺跡です。隣接する吉岡遺跡では縄文時代の竪穴建物、古代の掘立柱建物や畑、中世の掘立柱建物などが確認されています。

平成20年5月7日～21日にかけて、個人住宅建設に先立って経力遺跡の北西隅42.35m<sup>2</sup>の発掘調査を実施しました。以下にその概要を報告します。

現在の地表面から遺跡までの深さは約1.4mです。地表面から下に厚さ約1.1mの住宅団地造成土があり、その下に造成前の水田耕作土（厚さ約5cm）が一部残存しています。さらにその下層が遺物包含層（厚さ約12cm）になります。遺物包含層からは中世の土器が少量出土し、そのうち青磁1点（図2の1）と土師器2点（図2の2・3）を図化しました。いずれも室町時代（約500年前）であることから、遺物包含層はおおむね室町時代に形成されたことがわかります。遺物包含層の直下で畑や土坑、掘立柱建物などが確認されました。

なお、今回調査区から約10m南側の平成13年度調査区でも弥生・古墳時代、古代、中世の遺物が包含層から少量出土しており、今回調査区の様相と類似しています。

#### 2. 古代の畑

調査区南側で溝が4条確認されました。溝はおおむね幅30～60cm、深さ7～30cmで、溝間の距離は40～130cmです。これらは東西方向へ直線的に伸び、併行しています。北側の溝（1号溝）から古代（約1200年前）の土師器小片（甕または鍋）が2点（図3右中）出土しました。遺構から出土した遺物はこの2点のみです。

このような溝群は、平成13年度調査区東側でも確認されています。溝の規模（幅・深さ）や長軸方向がほぼ一致していること、溝から古代の土器が出土していることから、古代の畑と考えられています（富山市教育委員会2002）。今回調査区の溝群は、溝の規模や長軸方向が類似していることやその連続性から、平成13年度調査区東側の溝群と一連のもの、つまり古代の畑跡（畠間の溝）と考えられます（図1）。

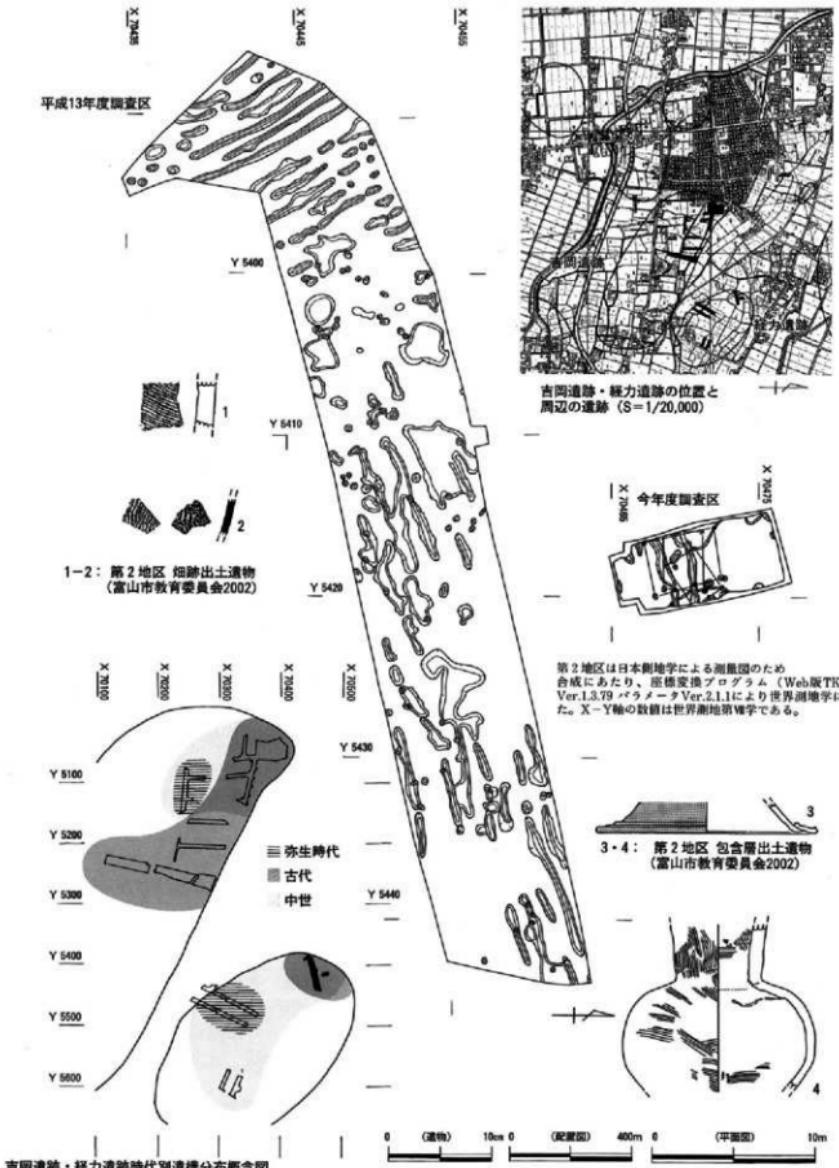
なお、溝の深さや傾斜から畠部分に盛ることができる土量を復元すると畠高は約40cmとなり、当時の地表面は現在残っているものより20cm程度高かったと考えられます。

#### 3. 古代の土坑

今回調査区東壁付近で長辺376cm、深さ約26cmの土坑（1号土坑）が確認されました（図3右上）。土坑断面が皿状を呈していることから竪穴建物の可能性もあります。切り合ひ関係から1号溝・2号溝よりも古い、古代の土坑とわかります。

#### 4. 古代・中世の掘立柱建築

1号掘立柱建物 柱行2間（約4.3m）、梁行1間（約3.3m）の側柱式建物で、建物面積は約14.2m<sup>2</sup>です。3棟のなかで最も大きく、柱間の距離（心々間）は柱行1.7～2.5m、梁行3.1～3.4mです。柱穴は直径20～40cm、深さ5～20cmで、柱の痕跡が明瞭に確認できる柱穴もありました。切り合ひ関係から、古代の土師器が出土した1号溝より新しい時期の建物とわかります。また、後述す



第1図 平成13年度 調査第2地区全体図と出土遺物

る古代の掘立柱建物（2号掘立柱建物・3号掘立柱建物）に比べて柱穴の配列がいびつで、柱間の距離も一定でないことから、1号掘立柱建物は中世の可能性が高いと思われます。なお、古代の地表面の高さを復元すると、建築当初の柱穴の深さは少なくとも25~40cmはあったと推定されます。

**2号掘立柱建物** 桁行1間、梁行1間の側柱式建物で、建物面積は約8.5m<sup>2</sup>です。柱間の距離（心々間）は桁行約3.7m、梁行約2.3mです。柱穴は直径20~25cm、深さ8~25cmで、柱の痕跡を明瞭に確認できるものもありました。その痕跡から復元される柱材は直径約12cmの円柱状です。柱穴4は1号土坑の下で確認されました。他の柱穴も柱穴4とはほぼ同じ大きさで、柱穴内の堆積土も類似します。平成13年度調査区では古代の遺構のみが確認されていることも考慮すると、2号掘立柱建物は古代である可能性が高いと考えられます。なお、古代の地表面の高さを復元すると、本来の柱穴の深さは28~45cmと推定されます。

**3号掘立柱建物** 桁行1間、梁行1間の小規模な側柱式建物で、建物面積は約6.2m<sup>2</sup>です。柱間の距離（心々間）は桁行が約3.0m、梁行が約2.1mです。柱穴は直径30~40cm、深さ20~30cmで、柱の痕跡を明瞭に確認できる柱穴もありました。その痕跡から復元される柱材は円柱状で、その直径は約13cmです。柱穴5が古代の烟跡（3号溝）の下で、さらに柱穴3は1号土坑の下でそれぞれ確認されました。平成13年度調査区で確認された遺構が全て古代であることも考慮すると、本建物は古代である可能性が高いと考えられます。なお、古代の地表面の高さを復元すると、本来の柱穴の深さは40~50cmと推定されます。

## 5.まとめ

経力遺跡が所在する富山市南部の扇状地では、古代・中世に農地の開墾が盛んに行われていたことを裏付ける集落遺跡が数多く見つかっています（図1）。平成13年度に実施された経力遺跡の発掘調査で、平安時代の掘立柱建物や畑、戦国時代の掘立柱建物、井戸、畑などが検出されており（図1）、周辺の遺跡と同様に古代・中世の開墾集落の一つと考えられています（富山市教育委員会2002）。

今回の発掘調査では、前回の調査で確認された烟跡と一連と思われる古代の烟跡や古代・中世の掘立柱建物が確認できました。限られた調査範囲ではありましたが、経力遺跡周辺地域の古代・中世における社会状況を解明する貴重な資料となりました。

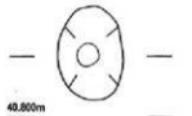
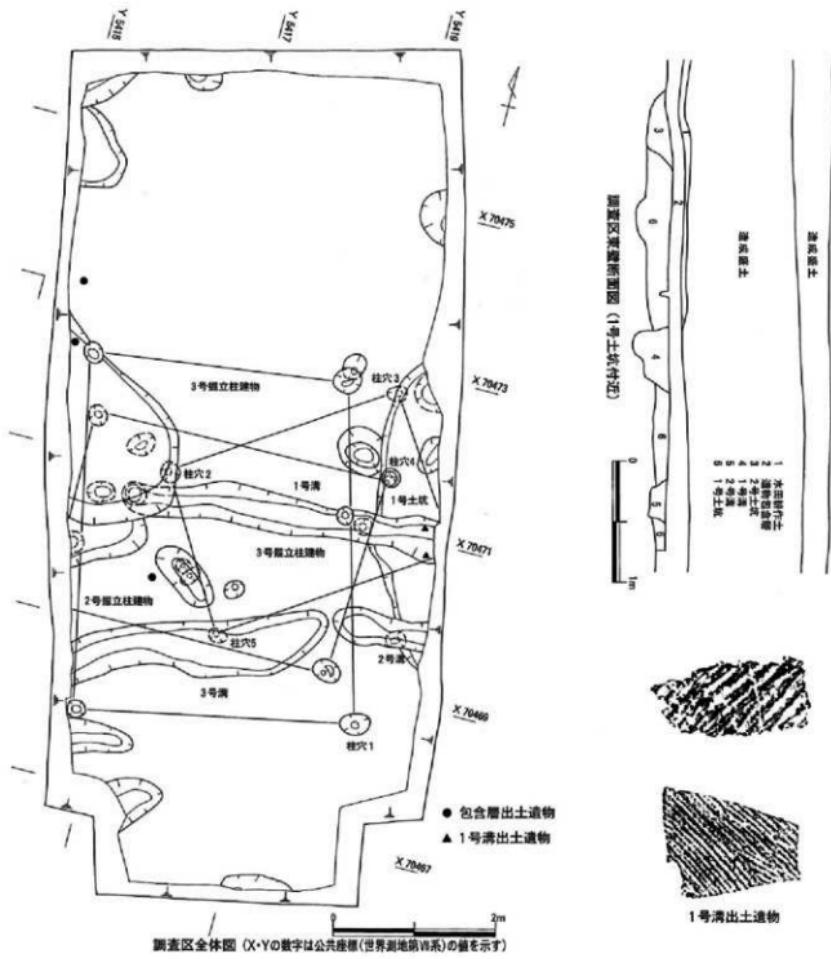
（長谷部真吾・秋葉保香・小林高太）

## 引用文献

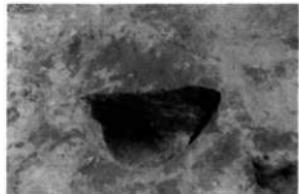
富山市教育委員会 2002 『富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書 - 珠泉ニュータウン造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 -』 富山市埋蔵文化財調査報告 122



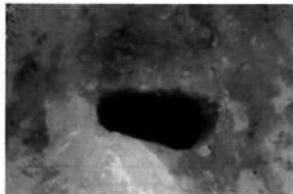
第2図 包含層出土遺物



柱穴1（アミかけ部分は柱底）



### 柱穴2（南から）



### 柱穴3（北から）

第3図 本年度調査の成果

## 吳羽山丘陵西麓の集落

## 北代村卷V遺跡

北代村卷V遺跡は、吳羽山丘陵の西麓、標高約15mの台地上に位置します。周辺には縄文時代前期の小竹貝塚・城ヶ森貝塚、国史跡で縄文時代中期の集落である北代遺跡、平安時代の長岡杉林遺跡などがあり、市内でも多くの遺跡が所在する地域です。平成20年5月29日～6月13日にかけて、個人住宅建設に先立って113m<sup>2</sup>の発掘調査を実施しました。

### 1. 鎌倉時代の大規模な溝

調査では鎌倉時代（約700～750年前）とみられる大規模な溝を2条確認しました。2条の溝は南北に並行して伸び、溝1の規模は検出長約9.8m、幅約2m、深さ約0.8m、溝2の規模は検出長約9.8m、幅約2m、深さ約1.2mありました。溝は集落の周りを区画するためと考えられ、今回見つかったのはその一部です。

溝2の北部の底面からは径約1.6mの井戸が検出されました。素掘りの井戸で深さは1m以上になります。井戸南側の溝の底面は、井戸に向かって緩やかに下がっており、溝内に流れ込んだ雨水が、井戸に溜まるよう工夫されていた可能性があります。一方、井戸より北側の溝は急に傾斜が上がっており、井戸に昇り降りするための通路となっていたのかもしれません。

溝の中からは鎌倉時代の陶磁器が見つかっており、溝が使われたのは鎌倉時代と考えられます。また、奈良・平安時代（約1150～1250年前）の土器も大量に出土したことから、溝が掘られる前には奈良・平安時代の遺構が存在したと推定されます。

### 2. 縄文時代から鎌倉時代の出土品

縄文時代、奈良・平安時代、鎌倉時代の出土品がありました。

縄文時代は、縄文土器の浅鉢(1)、堅果類を割るための凹石(2)があります。奈良・平安時代は、土師器の壇(3～5)・甕(6・7)、須恵器の蓋(8・9)・壺(11～16)・甕(17)・壺(18)などがあります。

土師器のうち3・4は、保水性を高める工夫を施した内面黒色土器と呼ばれる土器です。鎌倉時代は、中世土師器皿(19～21)、珠洲焼の甕(22)・捕鉢(23・24)などがあります。また、魚漁の際におもりとして使われた土鍬(25)、製鉄の際に空気を送るために使われた羽口(26)も見つかりました。

### 3. 断続的に続く集落

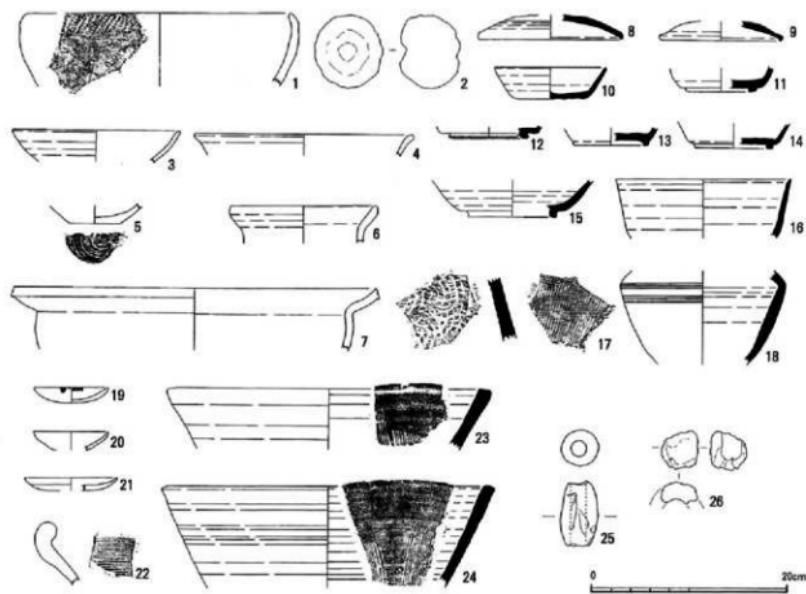
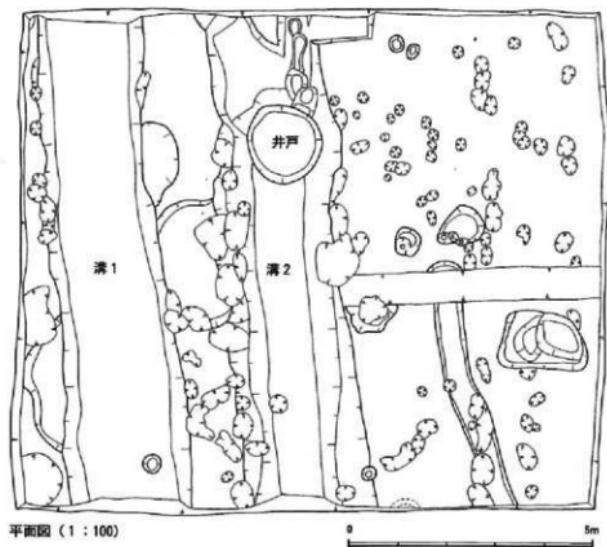
本遺跡は、縄文時代、奈良・平安時代、鎌倉時代の3期にわたって断続的に営まれた集落と考えられます。縄文時代の出土品はわずかですが、奈良・平安時代では、出土品の量からみて近辺に大規模な集落が形成されたと推測できます。本遺跡の周辺は奈良・平安時代以降、水田を開拓する開墾集落が急激に増えることが知られており、本遺跡もそうした集落の一つであった可能性が高いといえます。鎌倉時代には、大規模な区画溝を掘っていることから地域の拠点的な集落があったと考えられます。



調査区の全景(東から)



溝2と井戸(北から)



出土品実測図 (1 : 5)

## 平成20年度埋蔵文化財センター事業

## 1 埋蔵文化財調査

●発掘調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

遺跡名(遺跡No)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果	遺跡の種類
米田大覚(201021)	米田町1丁目	団地造成工事に伴う発掘調査	1,869	平安井戸、平安溝、中世溝、中世土坑／繩文打製石斧、平安須恵器、平安土師器、平安經輪陶器、平安井戸枠、中世土器群、中世珠洲、中世青磁、中世白磁、中世古瀬戸、中世花瓶、中世下駄、中世板碑	集落・官衙
北代村巻V(201119)	北代字村巻	自己用住宅建築	113	繩文土坑、平安溝、平安土坑、中世溝、中世土坑、不明ピット／繩文中土器、繩文黒曜石陶片、繩文回石、古代土師器、古代須恵器、古代鉄滓、中世土師器、中世珠洲、中世青磁、中世越前、不明鉄製品	集落
百塚(201189)	松木	主要地方道富山八尾線 道路改良事業	150	弥生終万形周溝墓、近世～近代区画溝、不明ピット／繩文碗土器、弥生後弥生土器、弥生終弥生土器、近世越中瀬戸、近世津津、近世伊万里、近代陶磁器、近代瓦	古墳・散布地
水橋上砂子坂 (201256)	水橋下砂子坂	自己用住宅建築(新幹線)	367	中世溝、中世土坑、中世ピット、中世井戸、近世溝、近世土坑／古代須恵器、古代土師器、中世土師器、中世珠洲、中世瀬戸美濃、中世越前、中世八尾、中世木札、中世漆器、中世曲物、中世弓状木製品、近世五輪塔(空風輪)、近世越中瀬戸、近世伊万里、近世磁器、近世陶器、不明鉄滓、不明羽口	集落
富山城跡(201397)	諏曲輪4丁目	諏曲輪4丁目・諏篠町地区優良建築物等整備事業	959	中世大溝、近世青割下水、近世大溝、近世井戸、近世土坑、近世ピット、近世自然流路／中世かわらけ、近世陶磁器、近世瓦質土器、近世銭貨、近世本製品、近世金屬製品	集落・城館
富山城跡(201397)	大手町	市内電車環状線化事業	161	中世～近世溝、近世井戸、中世土坑、不明ピット／中世土師器皿、中世珠洲、近世越中瀬戸、近世陶磁器、近世木簡、中世木製鉢	集落・城館
北押川B(201463)	池多	企業団地造成工事	104	平安粘土採掘坑、平安炭窯煙出／繩文石礫、繩文磨石、平安土師器、平安鉄滓	集落・その他の生産遺跡
池多東(201465)	池多	企業団地造成工事	4,897	繩文土坑、古代灰窯、古代粘土採掘坑、古代燒壁土坑、古代廢棄土坑、不明落とし穴 状遺構、不明土坑、不明ピット／繩文中土器、古代須恵器、古代土師器、古代鉄滓、古代羽口、近世陶磁器	集落・その他の生産遺跡
北押川C(201466)	北押川	企業団地造成工事	1,148	古代燒壁土坑、不明土坑、不明ピット／繩文土器、繩文剥片、古代須恵器、古代土師器、不明砥石	集落・その他の生産遺跡
上新保(201497)	上新保字松木割	団地造成事業	2,799	奈良～平安廻穴建物、奈良～平安掘立柱建物、奈良～平安の自然流路、奈良～平安溝、奈良～平安ピット、奈良～平安土坑、平安烟跡／奈良須恵器、奈良土師器、平安須恵器、平安土師器、古代鉄滓、古代砥石、古代柱根	集落
経力(201524)	珠泉東町	自己用住宅建築	42	古代掘立柱建物、中世掘立柱建物、古代溝群(烟跡)、古代土坑、不明ピット／古代土師器、中世土師器、中世青磁	集落
計11件			12,609.0		

●試照確認調査 開発予定地内の遺跡の有無などを確認する調査です。\*は立会調査

遺跡名(遺跡名)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
大村(201003)	海岸通字古城跡割	自己用住宅建築	895.6	古代土師器
打出(201009) *	打出	道路改良工事	57	遺跡なし
打出(201009)	打出	倉庫建築	198.94	遺跡なし
今市(201010) *	八町	八町排水路改良工事	40	遺跡なし
今市(201010)	布目	喫茶店建築	264.66	遺跡なし
今市(201010) *	布目	特環503熊野処理分区 第6工区下水管布設	62	自然流路／近世越中瀬戸、近世唐津、近世伊万里
今市(201010) *	布目	自己用住宅建築(建替)	236.81	不明溝／なし
今市(201010)	八幡	自己用住宅建築	407	弥生溝、弥生土坑、平安溝／弥生土器、平安土師器、平安須恵器
今市(201010)	八町	自己用住宅建築	995.58	中世土師器
今市(201010) *	布目	布目東排水路改良工事	185	遺跡なし
今市(201010) *	八幡新町	奈江島地区分界第6工区下 水管布設(その1)工事	72.00	弥生終末期溝、弥生終末期土坑、弥生終末期ピット／弥生 終末期土器
今市(201010)	布目	自己用住宅建築	174.18	遺跡なし
草島(201016)	草島字鶴田	自己用住宅建築	285.89	近代陶磁器
連町(201020)	連町五丁目	自己用住宅建築	463.37	遺跡なし
連町(201020) *	連町四丁目	岩瀬中学校グラウンド 野球施設設置工事	280	不明土坑／なし
米田大覚(201021)	米田町一丁目	自己用住宅建築	320.2	遺跡なし
浜黒崎駅田 (201032) *	浜黒崎	市道浜黒崎10号線道路 改良工事	54	遺跡なし
高島(201041)	高島	自己用住宅建築	345.46	遺跡なし
高島(201041)	高島	自己用住宅建築	315.95	遺跡なし
水堀池田館(201052)	水堀池田館字 打ノ宮	自己用住宅建築	471.33	遺跡なし
水橋大正(201054)	水橋大正字六 正割	進入路造成	312	遺跡なし
呉羽本郷(201062)	本郷中部	自己用住宅建築	456.85	遺跡なし
大塚(201063)	大塚西	自己用住宅建築	321	中世土師器
頬海寺跡除 (201066)	頬海寺城水口	学校舎建設及び外構 整備	2190.61	遺跡なし
頬海寺跡除 (201066) *	頬海寺	湊付 836頬海寺第2幹 線外音渠築造工事	399	構造なし
東老田 I (201072) *	東老田地内	特埋 花木東老田幹 第1工区管渠施設工事 古墳土坑、古墳溝	604	古墳土坑、古墳溝／古墳土師器
小竹貝塚(201105)	真羽町字種田	自己用住宅建築(新幹 線による移転)	387.34	縄文前溝、縄文前土坑、弥生溝、弥生土坑／縄文前繩文土器、屬 文前凹石、縄文前磨製石斧、弥生土器、古代須恵器、古代土師器
小竹貝塚(201105) *	真羽町北	新鐵川河川改良工事	440	縄文(前)貝塚、縄文(前)墓坑、縄文(前)土坑、縄文(前)集 石遺構／縄文(前)繩文土器、縄文(前)石製品(磨製石斧、 石臼、石籠、凹石、伏状耳飾など)、縄文(前)植物(クルミ など)、縄文(前)骨角器、縄文(前)人骨、縄文(前)獸骨(イ ノシシ、シカ、イス、イルカ、クジラなど)、縄文(前)貝 殻(シジミ、大タニシなど)、古墳土器、古代須恵器
八ヶ山A(201110)	八町南	工場敷地拡張	4522	平安磐土建物、平安大溝、平安土坑、平安ビット／平 安須恵器、平安土師器、平安铁斧、縄文土器、江戸越中瀬戸
北代村巣巣(201114)	北代字中谷	自己用住宅建築	229.08	縄文 文不明土器
北代村巣V(201119)	北代字村巣	自己用住宅建築	476.23	平安溝、平安土坑、平安ビット／縄文土器、平安須恵器、平安土師器
山谷I(201136)	鳥羽町	自己用住宅建築(新幹 線代替地)	319.24	弥生終土坑、弥生終溝／縄文土器、弥生終土器
追分茶屋(201144)	鳥羽町藤塚	自己用住宅建築	187.01	縄文中土器、近代陶器
北代字タクダ (201159)	北代字布口	墓地造成工事(新幹線 による移転)	900	古代磐土建物／古代須恵器、古代土師器
北代布口II (201161) *	北代字布口	自己用住宅建築	648	不明土師器
百塚住吉D (201185)	寺島	県営農免地整備事業 鳥羽和合初期地区改良工事	1280	古代溝、古代土坑／古代土師器、古代須恵器
百塚住吉(201187) *	宮尾	カーポート設置	150	遺跡なし
百塚(201189) *	百塚	牛ヶ首神社鳥居等撤去	9.5	遺跡なし
百塚(201189)	百塚	主要地方道當山八幡 道路改良事業	1200	縄文土器、古墳前土坑、平安須恵器、縄文晚磨製石斧
百塚(201189) *	百塚	流域開進富山特定環境 保全公共下水道寒江熱 排水区分第6工区下水管 布設(その1)工事	278	遺物包含層(縄文晚期)／縄文晚期縄文土器、铁斧(古代 以降)、近世陶磁器
八ヶ山(201191)	百塚	更地整地工事(竹林等 の伐採)	2390	古墳前期土器、古代土器

遺跡名(遺跡No.)	所在地	調査原因	面積(m <sup>2</sup> )	調査結果
飯野小百戸 (201205)*	新屋地内	公共33 村川雨水幹線 第3工区築造工事	145	不明磁器
金泉寺(201214)	三上字前田割	自己用住宅建築	250	遺跡なし
金泉寺(201214)	三上字前田割	自己用住宅建築	271	遺跡なし
金尾(201228)*	水橋金尾	一般国道415号 金平 橋歩道橋護岸工事	1983	中世土師器、不明陶器
水橋金広・中馬 塙(201251)*	水橋中馬場	市道水橋金広中馬場線 道路改良工事	40	不明ピット、不明土坑、不明溝/なし
砂川カタダ (201284)*	東老田	東老田(第3工区) 配水 管布設工事	173.5	不明ピット/江戸越中瀬戸
花ノ木A(201287)*	東老田	流特 花木東老田幹線 第1工区管渠築造工事	45	遺跡なし
花ノ木B(201288)*	花木	特尾 花木東老田幹線第2工 区管渠築造工事(下水道)	55	遺跡なし
花ノ木C(201291)*	花木	流特 花木東老田幹線 第2工区管渠築造工事	80	遺跡なし
富山城跡(201397)*	本丸	タイムカプセルの移設 (公園工事に伴う)	4	中世溝/古代須恵器、中世土師器
富山城跡(201397)*	大手町	経年ガス管入替工事	150	江戸時代塗/江戸越中瀬戸、江戸かわらけ、江戸伊万里、 江戸唐津、近代陶磁器、近代瓦、近代土管、近世陶磁器
富山城跡(201397)	本丸	城址公園整備計画	46	中世溝、中世ピット、中世井戸、近世土坑/中世かわらけ、中世 溝、中世蓄戸黄瀬、中世白磁、中世青花、中世織物品、中世羽 口、中世不明鉄製品 江戸かわらけ、江戸越中瀬戸、古代須恵器
富山城跡(201397)	總曲輪4丁目、 旅籠町	總曲輪4丁目・旅籠町 地区優良建物等整備事業	1,681	中世~近世溝、中世~近世土坑、中世~近世ピット、近世から近 代骨削下水/寄生土器、古代土師器、戰国中世土器、江戸かわ らけ、江戸越中瀬戸、江戸蓄戸黄瀬、江戸伊万里、江戸唐津
富山城跡(201397)*	大手町、總曲 輪越前町	NTT電気通信設備工事	2,685	(中世~近世)井戸、柱穴、溝、堀、石組水路土坑(近世~ 近代)骨削下水/中世土師器、珠洲焼、溝、江戸越中瀬戸、 唐津伊万里、江戸かわらけ、江戸~近代、瓦、不明陶磁器、 江戸黒骨、江戸木製品、不明陶磁器
富山城跡(201397)*	大手町、總曲 輪	大手モール下水管布設 替工事	289	江戸 井戸、土坑、近世~近代、骨削下水/江戸かわらけ、 江戸越中瀬戸、伊万里、近世~近代陶磁器、近世~近代瓦
富山城跡(201397)*	一番町、越前 町	火防水路改良工事	250	近世北陸街道/江戸越中瀬戸、近世~近代陶磁器、硯、木 製品
中世富山城推定 地(201398)*	千石町4丁目	マンション建築	708.4	遺跡なし
新庄城跡(201403)	新庄町1丁目	アパート建築	454	中世珠洲、中世土師器
黒瀬大屋(201479)	黒瀬字大屋割	事務所・倉庫建築	1,596	遺跡なし
黒崎塙田割(201480)	黒崎塙田割	建築建築	1909.69	古代土師器
山室西田(201486)	山室字西田割	長屋(共同住宅)建築工事	250	不明土師器
山室西田(201486)	山室字西田割	介護支援施設建築	1056	遺跡なし
山室東田(201487)	太田字南田割	自己用住宅建築	144.74	古代溝/古代須恵器
山室東田(201487)	山室	分譲宅地造成工事	2,550	平安溝、平安柱穴/平安須恵器、平安土師器、中世珠洲焼、近世伊万里
山室東田(201487)	山室	自己用住宅建築	613.3	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木柄	自己用住宅建築	188.19	中世土孔、中世溝/中世土師器
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木柄	自己用住宅建築	199.16	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木柄	自己用住宅建築	197.44	遺跡なし
本郷椎木(201488)	本郷町字椎木柄	自己用住宅建築	258.2	弥生終~古墳前土坑/発生終土器、古墳前土器
上新保(201497)	上新保松本割	宅地造成工事	84114.57	平安堅穴建物、平安土坑、平安溝、平安柱穴、中世河跡 /平安須恵器、平安土師器、平安製塙土器、平安鉄滓、中 世土師器
上新保(201497)*	上新保松本割	埋設物確認調査	15500	平安須恵器、平安土師器、中世土師器
上新保(201497)	上新保	自己用住宅建築	240.15	近世溝/古代須恵器、近世越中瀬戸、近世伊万里、近世磁器
友杉(201500)	友杉字北条田割	自己用住宅建築	424	遺跡なし
安養寺(201512)	安養寺	自動車修理工場建設	2000	遺跡なし
二俣北(201515)*	二俣	小杉二俣線開溝工事	190	遺跡なし
二俣(201516)	上野	自己用住宅建築	330.58	縄文土器
石田北(201517)*	石田	石田二俣線道路改良工事	240	縄文土器、古代土師器
若竹町(201527)	慈王寺	自己用住宅建築工事 (建替え)	649.39	遺跡なし
辰尾(201531)	辰尾	資材置場造成	912.00	古代須恵器
辰尾(201531)*	辰尾東川割	市道宮保辰尾1号線道 路改良工事	135	遺跡なし

遺跡名(遺跡番号)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
本郷町(201533)	閑	自己用住宅建築	495	近代陶磁器
新名(201534)	石屋	自己用住宅建築	364	遺跡なし
閑(201535)	閑	自己用住宅建築	334	遺跡なし
布市(201537)	石田	農家分家住宅建設	330	遺跡なし
布市(201537) *	月岡町6丁目	市道上今津線道路改良工事	90	室町大満、不明満／室町中世土師器皿(灯明皿)
布市(201537) *	布市	市道古田川号線道路改良工事	63	遺跡なし
閑発覚田(201543)	閑免	自己用住宅建築	200.87	遺跡なし
西番南割(201547) *	西番	水道管布設工事	8	遺跡なし
上熊野(201566) *	上熊野	特認 熊野処理分区第8工区下水道管布設(その1)工事	416	中世満／中世珠洲
大井(201574) *	大井	市道月岡大井線道路改良工事	83	遺跡なし
大井(201574) *	大井	市道月岡青柳上今町線道路改良工事	87	中世土師器
金屋古屋敷(201586) *	金屋	市道金屋21号線道路改良	124	古代須恵器、江戸越中漁戸
塙(301007)	塙	公害防除 神通川流域第3次地区	10,960	中世満、中世ビット／縄文土器、縄文打製石斧、中世土師器、近世越中漁戸
塙(301007)	塙、塙内側	自己用住宅建築	282	縄文不明土器、古代土器
塙(301007)	塙字内側	駐車場造成	352	遺跡なし
布尻A(301031) *	町長	水道配水管ボリエチレン管布設工事	106	遺跡なし
小糸・小萩野(301084) *	舟渡	水道管敷設工事	185	遺跡なし
春日(301025)	春日	樹木伐採移植及び水路工事(春日公園)	19,000	縄文土器、凹石
内A(301041)	塙	公害防除 神通川流域第3次地区	5,170	中世満、中世ビット／縄文土器、中世土師器、近世越中漁戸
下大久保(301070)	下大久保字西六番割	自己用住宅建築	228	遺跡なし
東川倉(361036) *	八尾町水口	上水道配水管布設工事	41	遺跡なし
館木邸II(361068)	八尾町高善寺	駐車場造成	112	遺跡なし
館木邸II(361068)	八尾町高善寺	経営体育施設整備事業	6,867	弥生終土器包含層、不明満、不明土坑／弥生終土器、平安土師器、平安須恵器、室町珠洲、江戸伊万里
安田城跡(362001)	福中町安田	農機具収納庫建築	109	遺跡なし
友坂(362002)	福中町友坂	友坂公民館駐耶場造或工事	253	古代須恵器、古代土師器
友坂(362002) *	福中町友坂	流雪満整備工事	350	遺跡なし
友坂(362002)	福中町友坂	倉庫、納屋建築(増築)	120	古代土坑、古代ビット／古代土師器、古代須恵器、室町珠洲焼、中世不明陶器、江戸唐津燒
友坂(362002) *	福中町友坂	倉庫、納屋建築(増築)	13	古代土師器、中世陶器
千坊山(362029)	福中町長沢字千坊	史跡玉坂千坊山遺跡群第4種地区(千坊山遺跡)試掘確認調査	2,752	弥生終穴立居、不明満、近代土坑／縄文土器、縄文磨製石斧、弥生土器、近代角釘
小倉中福II(362045)	福中町小倉	コンビニエンスストア建設工事	462	戦国満、戦国土坑、戦国ビット／戦国中世土師器
道場I(362119) *	福中町道場	流特778 板倉第2処理分区 道場地区間渠築造(その3)工事	840	遺跡なし
道場I(362119) *	福中町道場	流特777 板倉第2処理分区 道場地区間渠築造(その2)工事	995	遺跡なし
中名V(362121) *	福中町中名	流特 蔵島第1処理分区中名地区下水管布設(その1)工事	440	中世五輪塔火輪
中名V(362121) *	福中町中名字北浦	流特778 板倉第2処理分区 道場地区間渠築造(その3)工事	840	近世満、近世土坑／中世磁器、近世伊万里、近世唐津、不明透器
千里D(362142) *	福中町千里	水道管布設工事	78	遺跡なし
寺家・病子(361071・362155)	福中町病子	土砂採取	16,722	縄文土器、縄文打製石斧、古代土師器、古代須恵器
計116件(*43)			216,723.55	
19年度 捕獲(3月)				
黒瀬大嵐(201479)	黒瀬字大屋割	駐車場造成工事	964	古代谷／古代須恵器、古代土師器
本郷椎木(201488)	本郷字椎木	自己用住宅建築	349	遺跡なし
木曽上子坂(201256)	水橋下砂子坂	私道建基工事(新幹線開通)	102	不明土坑、不明満／なし
新堀塙田(201204)	新堀	本田新堀線道路改良工事	50	遺跡なし

## 2 北代縄文広場管理

北代縄文広場を市民に公開し、活用するため、管理運営を長岡校下自治振興会に委託しています。平成 20 年度も縄文広場では特別展・企画展や冬まつりなどの行事が行われました。(P2 参照)

## 3 史跡安田城跡管理

史跡安田城跡を市民に公開し、活用するため、埋蔵文化財センターが直接管理運営を行っています。

史跡安田城跡は、富山市婦中町安田地内に所在し、全国的に珍しい中世の平城として昭和 56 年 2 月に国史跡に指定されました。平成 2~4 年度に整備を行い、平成 5 年 5 月 13 日から、「史跡 安田城跡」として公開しています。

「安田城歴史の広場」では、本丸・二の丸・右郭が復元されており、本丸にある「土壘展示館」には、剥ぎ取り保存した土壘断面を展示し、土壘構築の様子を伝えています。「安田城跡資料館」では、出土品や城の歴史的背景を紹介した映像を見ることができます、2 階には遺跡が一望できる「遺跡見学室」があります。

平成 20 年度は、「富山市の中世城館(3) 小西北遺跡」など、2 回のミニ企画展を開催いたしました。(P24 参照)。

城跡には県内外から多くの方が訪れ、静岡県浜松社会保険センターより「浜松名城めぐり」45 名の皆さんのが来城されたほか(平成 20 年 10 月 7 日)、城山中学校 1 年生 104 名が社会科見学に訪れました(平成 20 年 10 月 7 日)。

そのほか、史跡活用の一環として、平成 5 年度から「安田城 月見の宴」が地元朝日地区の住民により催され、小学生による武者行列やよさこい、花火大会等が行われています。今年度は平成 20 年 8 月 23 日に開催され、2,000 人が参加しました。

入場者数は、平成 19 年度は 9,562 人、平成 20 年 4 月から平成 21 年 2 月末までは 8,757 人です。



安田城跡資料館と水堀  
に咲くスイレン(6月下旬~9月上旬開花)

## 4 婦中埋蔵文化財資料館管理

婦中埋蔵文化財資料館を市民に公開し、活用するため、埋蔵文化財センターが直接管理運営を行っています。

婦中埋蔵文化財資料館では、常設展「史跡王塚・千坊山遺跡群展」のほか、市内にある弥生～古墳時代の遺跡からの出土品、及び市民の方から寄贈された民具、農具などを展示しています。

平成 20 年度は、「王塚・千坊山遺跡群とその時代(4) -富山市豊田大塚・中吉原遺跡-」など 3 回のミニ企画展と、「発掘速報展 2007」巡回展を開催しました。(P24 参照)。

また、古里小学校 6 年生 34 名(平成 20 年 5 月 2 日)、朝日小学校 6 年生 23 名(平成 20 年 6 月 24 日)、草島小学校 4・5 年生 60 名(平成 20 年 9 月 19 日)が、社会科見学のため来館しました。弥生～古墳時代に作られた本物の出土品に接することで、身近な郷土の歴史に興味を持った様子でした。

入場者数は、平成 19 年度は 470 人、平成 20 年 4 月から平成 21 年 2 月末までは 521 人です。



婦中埋蔵文化財資料館を見学する小学生

## 5 展示・普及

### (1) 発掘速報展

#### 「発掘速報展 2007 山河との共生～先人たちのくらし～」巡回展

富山市考古資料館	平成 20 年 4 月 3 日～5 月 6 日
富山市婦中埋蔵文化財資料館	平成 20 年 5 月 13 日～6 月 15 日
富山市猪谷関所館	平成 20 年 6 月 17 日～7 月 6 日
富山市立山田図書館 1 階	平成 20 年 7 月 8 日～7 月 27 日
富山市大山歴史民俗資料館	平成 20 年 7 月 29 日～8 月 31 日

#### 「発掘速報展 2008 貝塚・集落・城下町を掘る」

富山市役所 1 階多目的ホール	平成 21 年 3 月 23 日～3 月 27 日
-----------------	---------------------------

内容：平成 20 年度に発掘調査を行った小竹貝塚、米田大覚遺跡、富山城跡（城下町）など 6 遺跡の出土品・写真パネルを展示し、先人たちの道具やくらしについて紹介しました。

### (2) 遺跡現地説明会

- ① 池多東遺跡 平成 20 年 9 月 28 日 参加者 60 名
- ② 上新保遺跡 平成 20 年 9 月 28 日 参加者 150 名
- ③ 小竹貝塚 平成 20 年 10 月 16 日 参加者 200 名
- ④ 米田大覚遺跡 平成 20 年 12 月 17 日 参加者 80 名  
(地元対象)
- ⑤ 富山城跡 平成 21 年 3 月 25 日 参加者 50 名



小竹貝塚現地説明会

### (3) 展示

#### ① 北代縄文広場

##### i ミニ企画展 「富山地域の縄文遺跡(2)～開ヶ丘中山Ⅲ遺跡～」

平成 20 年 3 月 20 日～7 月 13 日

##### ii 夏季企画展 「おしゃれの達人、縄文人」

平成 20 年 7 月 15 日～10 月 19 日

##### iii ミニ企画展 「八尾地域の縄文遺跡(2)～妙川寺遺跡～」

平成 20 年 10 月 21 日～平成 21 年 1 月 18 日

##### iv 冬季特別展 「早川莊作コレクション～越中地域考古資料から～」

平成 21 年 1 月 20 日～2 月 1 日

##### v ミニ企画展 「大山地域の縄文遺跡(2)～東黒牧上野遺跡（A 地区）～」

平成 21 年 2 月 3 日～4 月 26 日

#### ② 婦中埋蔵文化財資料館

##### i ミニ企画展 「王塚・千坊山遺跡群とその時代(4)－富山市豊田大塚・中吉原遺跡－」

平成 19 年 11 月 20 日～平成 20 年 5 月 12 日

##### ii ミニ企画展 「王塚・千坊山遺跡群とその時代(5)－富山市婦中町富崎遺跡－」

平成 20 年 6 月 17 日～11 月 16 日

##### iii ミニ企画展 「王塚・千坊山遺跡群とその時代(6)－富山市八町 II 遺跡－」

平成 20 年 11 月 18 日～平成 21 年 5 月 17 日

#### ③ 安田城跡資料館

##### i ミニ企画展 「富山市の中世城館(3) 小西北遺跡」

平成 20 年 4 月 22 日～11 月 3 日

##### ii ミニ企画展 「富山市の中世集落(3) 水橋金広・中馬場遺跡」

平成 20 年 11 月 5 日～平成 21 年 4 月 26 日

#### (4) 資料貸出

##### ① 富山市佐藤記念美術館 企画展 「埋もれていた いにしえ人の造形－富山とアジア地域の出土品－」

会期 平成 20 年 5 月 31 日～平成 20 年 7 月 6 日

貸出資料 北代遺跡 縄文土器 3 点、開ヶ丘中山Ⅲ遺跡 縄文土器 1 点、開ヶ丘狐谷Ⅲ遺

跡 7 点、鏡坂 I 遺跡 土偶 5 点、長岡八町遺跡 土偶 1 点、直坂遺跡 人面付土器 1 点、浜黒崎野田・平擾遺跡 土製耳飾 1 点、土版 1 点、妙寺遺跡 石棒 1 点、水橋金広・中馬場遺跡 石冠 1 点、木摺鉢 1 点、宮町遺跡 弥生土器 1 点、清水堂南遺跡 玉類 9 点、杉谷 A 遺跡 弥生土器 1 点、富崎墳墓群 弥生土器 2 点、千坊山遺跡 弥生土器 3 点、鐵治町遺跡 弥生土器 3 点、須恵器 1 点、翠尾 I 遺跡 弥生土器 5 点、打出遺跡 弥生土器 3 点、南部 I 遺跡 土師器 3 点、勅使塚古墳 2 点、百塚住吉遺跡 土師器 4 点、八町 II 遺跡 玉類 20 点、任海宮田遺跡 須恵器 1 点、砂子田 I 遺跡 製塙土器 1 点、米田大覚遺跡 墨書き土器 9 点、斎串 2 点、柄谷南遺跡 須恵器 1 点、西金屋窯跡 円面鏡 1 点、花ノ木 C 遺跡 人形 3 点、斎串 1 点、土師器 2 点、與羽モグラ池遺跡 土馬 1 点、明神遺跡 瓦塔 1 点、室住池 V 遺跡 須恵器点、小出城跡 漆椀 10 点、安田城跡 かわらけ 8 点、中名 I 遺跡 潬戸 1 点、堀 I 遺跡 越前 1 点

②富山県埋蔵文化財センター 富山市立神保小学校(6年生)への出張事業

会 期 平成 20 年 7 月 3 日

貸出資料 南部 I 遺跡 弥生土器 14 点、富崎遺跡 弥生土器 13 点、小倉中稻遺跡 土師器 12 点、珠洲 3 点、青磁 8 点、瀬戸 1 点、瓦器 1 点、碁石 1 点

③金沢学院大学美術文化学部文化財学科 木製品保存処理実習

会 期 平成 20 年 7 月 31 日～平成 21 年 3 月 31 日

貸出資料 米田大覚遺跡 木製品 13 点、水橋金広・中馬場遺跡 木製品 12 点

④富山市立三郷小学校 「三郷・水橋地区遺跡からの出土品展」

会 期 平成 20 年 10 月 31 日、11 月 2 日

貸出資料 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡 繩文土器 10 点、石器 6 点、弥生土器 4 点、須恵器 19 点、土師器 5 点、墨書き土器 2 点、獸脚 1 点、石帶帯飾り 1 点、瓦 1 点、土鍤 3 点、珠洲 3 点、青磁 2 点、中世土師器 1 点、木製品 8 点、清水堂南遺跡 弥生土器 15 点、玉つくり資料 12 点、水橋金広・中馬場遺跡 中世土師器 3 点、珠洲 4 点、青磁 4 点、すごろく盤 1 点、木製品 5 点、漆椀 4 点、石製品 5 点、ヤス 1 点、刀子 1 点 小出城跡 中世土師器 3 点、珠洲 1 点、越前 1 点、古瀬戸 2 点、青磁 1 点、木製品 8 点、漆椀 9 点、鉄製品 2 点、鉄砲の玉 3 点

⑤富山県埋蔵文化財センター 企画展「大発掘！とやま—開発と保存の時代—」

会 期 平成 20 年 12 月 16 日～平成 21 年 3 月 31 日

貸出資料 柄谷南遺跡 瓦 2 点、須恵器 1 点、土馬 1 点、鐘状銅製品 1 点、安田城跡 中世土師器 4 点

(5)講座

①富山市民大学

日本の歴史

鹿島主査学芸員	物流からみた古代・中世—富山の発掘品から探る—	7月9日
藤田所長（堀沢主査学芸員）	繼体天皇と国際性（堀沢主査学芸員：事例報告）	10月8日

数字と文字の考古学

小林主査学芸員	古代役所にみられる文字	5月13日
藤田所長	縄文人の数字認識	5月27日
加藤郷土博物館長	外山と富山	6月10日
野垣学芸員	古墳の築造と数字	6月24日
小黒主任学芸員	古墳と尺	7月8日
堀沢主査学芸員	土器に文字を書いた人々	9月9日
堀内主任学芸員	石に刻まれた文字	9月30日
古川主幹学芸員	石垣に書かれた文字	10月14日
古川主幹学芸員	木札から富山城下町を探る	11月11日

## 郷土の歴史

藤田所長	婦負王国成立のころー四隅突出墳の世界ー	7月3日
------	---------------------	------

## 美術の世界

堀沢主査学芸員・細辻主任学芸員	出土品の焼き物	6月17日
-----------------	---------	-------

## 私が訪れた国々

藤田所長	中国・赤峰市ー世界最古の耳飾の故郷ー	6月6日
------	--------------------	------

## ②市役所出前講座

- 平成20年4月17日 「遺跡からみた富山の歴史(呉羽地区周辺の遺跡について)」 呉羽地区  
公民館連絡協議会 呉羽会館第一会議室 50名 小林主査学芸員
- 平成20年5月8日 「遺跡からみた富山の歴史(富山市南部の歴史)」 富山市公民館連絡協  
議会第5ブロック連絡協議会 光陽公民館 28名 堀沢主査学芸員
- 平成20年5月22日 「遺跡からみた富山の歴史(東黒牧上野地域の遺跡について)」 東黒牧  
上野いきいきサロン 坪田稔氏宅 8名 小松主査学芸員
- 平成20年6月3日 「遺跡からみた富山の歴史(史跡王塙・千坊山遺跡群を中心に)」富山市古  
里地区観光協会総会 富山市古里公民館 38名 細辻主任学芸員
- 平成20年6月18日 「遺跡からみた富山の歴史(古沢地区周辺の遺跡について)」 古沢校下  
ふるさとづくり推進協議会 古沢地区センター 23名 小林主査学芸員
- 平成20年7月18日 「遺跡からみた富山の歴史(文殊寺の遺跡について)」 文殊寺地区いき  
いきサロン 文殊寺公民館 25名 小松主査学芸員
- 平成20年7月24日 「遺跡からみた富山の歴史(熊野川流域の古代遺跡について)」 熊野校  
下ふるさとづくり推進協議会 熊野地区センター 35名 小林主査学芸員
- 平成20年8月4日 「遺跡からみた富山の歴史(富山城の発掘から)」 富山シティロータリー  
クラブ 富山第一ホテル 52名 古川主幹学芸員
- 平成20年8月19日 「遺跡からみた富山の歴史(富山城・城下町の発掘調査から)」 とやま  
おんなの哲学研究会 富山県知事公館 18名 古川主幹学芸員
- 平成20年9月2日 「遺跡からみた富山の歴史(遺跡からみた細入地域の歴史)」 細入地域  
公民館活動運営協議会 富山市細入公民館 32名 小林主査学芸員
- 平成20年9月18日 「遺跡からみた富山の歴史(富山城の石垣を探る)」 富山西ロータリー  
クラブ 富山電気ビル 45名 古川主幹学芸員
- 平成20年10月31日 「遺跡からみた富山の歴史(三郷・水橋地区遺跡からの出土品と遺跡か  
ら知る水橋の歴史)」 三郷小学校 5・6年生 三郷小学校研修室 60  
名 堀沢主査学芸員
- 平成20年12月11日 「遺跡からみた富山の歴史(東福沢の遺跡について)」 さゆりの会 東  
福沢5区公民館 12名 小松主査学芸員
- 平成21年2月26日 「遺跡からみた富山の歴史(山室中部の遺跡と歴史)」 山室中部社会福  
祉協議会 富山市山室中部公民館 35名 古川主幹学芸員
- 平成21年3月6日 「遺跡からみた富山の歴史(富山城の謎を探る)」 富山県立富山東高等学  
校地歴公民科 富山県立富山東高等学校 30名 古川主幹学芸員
- 平成21年3月7日 「遺跡からみた富山の歴史(龍高寺宝篋印塔について)」 宗教法人龍高寺  
70名 古川主幹学芸員
- 平成21年3月15日 「遺跡からみた富山の歴史」 アクティブ・ライフ・クラブ(中高生生  
涯現役塾生) 喫茶ロニアン 10名 小林主査学芸員

## (6)その他

- ①社会に学ぶ14歳の挑戦 小林主査学芸員・細辻主任学芸員  
・山室中学校(2名) 平成20年7月7日~7月11日

- 出土品整理・北代縄文広場管理・遺跡発掘調査業務の体験
- ・奥田中学校（2名） 平成20年9月29日～10月3日  
出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験
  - ・新庄中学校（2名） 平成20年9月29日～10月3日  
出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験
  - ・吳羽中学校（5名） 平成20年9月30日～10月3日  
出土品整理・北代縄文広場管理業務の体験
- ②古里小学校社会科見学「校外学習」 細辻主任学芸員  
古里小学校6年生（34名） 婦中埋蔵文化財資料館 平成20年5月2日
- ③熊野校下ふるさとづくり推進協議会遺跡現地見学 小黒主任学芸員  
熊野校下ふるさとづくり推進協議会・熊野小学校6年生（90名） 経力遺跡発掘現場  
平成20年5月16日
- ④朝日小学校社会科見学「校外学習」 細辻主任学芸員  
朝日小学校6年生（23名） 婦中埋蔵文化財資料館 平成20年6月24日
- ⑤新庄小学校校下探検隊「首無地蔵について」 古川主幹学芸員  
新庄小学校 西新庄薄地蔵尊前 平成20年6月25日
- ⑥悠久の森実行委員会 悅久の森2008「縄文クッキーをたべてみよう！」  
堀沢主査学芸員・細辻主任学芸員・安達志津（富山市日本海文化研究所研究員）  
富山市ファミリーパーク遊園地 平成20年8月30日～8月31日 230名
- ⑦草島小学校社会科見学「校外学習」 細辻主任学芸員  
草島小学校4・5年生（60名） 婦中埋蔵文化財資料館・王塚古墳・勅使塚古墳  
平成20年9月19日
- ⑧文部科学省地方教育行政実務研修（文部科学省初等中等教育局国際教育課 小林優一氏）  
藤田所長・古川主幹学芸員・堀沢主査学芸員・鹿島主査学芸員・細辻主任学芸員  
埋蔵文化財センター業務説明、発掘調査現地・史跡等視察 平成20年10月15日
- ⑨研修会参加等  
独立行政法人奈良文化財研究所研修「掘立柱建物・礎石建物遺構調査課程」 細辻主任学芸員 平成20年6月9日～6月13日
- ⑩新聞記事掲載（平成20年3月～平成21年2月末）
- 2008, 03, 06 「石のお経「完全版」出土 大山の古刹・東薬寺」（北日本夕刊）
  - 2008, 03, 17 「古里歴史ロマン 北代遺跡」（北日本）
  - 2008, 03, 20 「地域に愛される遺跡・北代縄文広場」（北日本）
  - 2008, 03, 25 「市役所で発掘速報展」（北日本）
  - 2008, 04, 05 「滴・古代の越中史 研究（庵島昌也コメント）」（北日本）
  - 2008, 04, 22 「装飾きらびやか武具 富山市郷土博物館で展示・館蔵武具展」（富山）
  - 2008, 04, 22 「富山藩独特の武具を紹介・富山市郷土博物館 館蔵武具展」（北日本）
  - 2008, 04, 29 「滴・歴史文化紹介の核に（加藤達行コメント）」（北日本）
  - 2008, 05, 04 「時空を超えたおくりもの 23・越中地域考古資料（早川莊作蒐集品）  
（北代遺跡）」（北日本）
  - 2008, 05, 12 「王塚・千坊山遺跡群の管理計画 活用と保存で区分」（北日本）
  - 2008, 06, 01 「時空を超えたおくりもの 24・堅穴住居 北代遺跡（富山市）」（北日本）
  - 2008, 06, 16 「古里歴史ロマン ちょうちょう塚」（北日本）
  - 2008, 06, 25 「李朝渡来の金銅仏 富山東薬寺で確認」（北日本）
  - 2008, 06, 30 「富山市佐藤記念美術館 燃物140点を展示  
（「埋もれていたいにしえ人の造形・富山とアジア地域の出土品 -」）」（富山）
  - 2008, 07, 21 「古里歴史ロマン 王塚古墳・勅使塚古墳」（北日本）
  - 2008, 07, 25 「熊野川流域の歴史学を学ぶ（小林高範）」（北日本）
  - 2008, 07, 26 「幕末の観光名所「越中舟橋」江戸初期に付け替えか（古川知明コメント）」

(富山)

- 2008, 07, 26 「鐵治示す遺物も出土・安田城跡」(北日本)  
2008, 07, 30 「ふるさとの歴史探訪 児童ら市内史跡巡り(安田城跡)」(北日本)  
2008, 08, 16 「おしゃれの達人、縄文人(北代縄文館)」(北日本)  
2008, 08, 19 「富山城 聚楽第がモデル 富山市埋文センター調査」(北日本)  
2008, 08, 22 「ふるさと風土記 1218・富山市長岡地区(北代縄文広場)」(北日本)  
2008, 08, 27 「寄稿 富山城 聚楽第がモデル(古川知明)」(北日本)  
2008, 09, 06 「けさの人・埋もれた歴史掘り起こしたい(古川知明)」(北日本)  
2008, 09, 08 「わがまち賛歌・富山市北代①北代縄文広場」(富山)  
2008, 09, 15 「古里歴史ロマン 蝋ヶ森貝塚」(北日本)  
2008, 09, 15 「古代婦負郡を探ろう(フォーラム「古代越中婦負郡を探る」)」(北日本)  
2008, 09, 25 「富山・上新保遺跡 竪穴住居跡150棟確認」(北日本)  
2008, 09, 26 「県内に数の集落跡確認 富山・上新保遺跡」(富山)  
2008, 09, 25 「きょう、2遺跡で説明会 富山の「上新保」「池多東」」(読売)  
2008, 09, 29 「富山・上新保、池多東遺跡 大規模集落跡を説明」(富山)  
2008, 10, 15 「集落の生活跡確認 富山・小竹貝塚」(北日本)  
2008, 10, 15 「生活跡示す遺構確認 富山の小竹貝塚」(富山)  
2008, 10, 16 「小竹貝塚調査 人骨など確認」(読売)  
2008, 10, 17 「縄文の生活跡など紹介 小竹貝塚の説明会に150人」(富山)  
2008, 10, 26 「村の移り変わりを学ぼう(婦負の国 弥生フォーラム)」(富山)  
2008, 11, 01 「土器から郷土史を学ぶ 三郷小 埋文出前講座を開く(堀沢祐一)」(北日本)  
2008, 11, 06 「播磨上人の足跡を紹介 富山市大山歴史民俗資料館」(富山)  
2008, 11, 17 「古里歴史ロマン 新堀西遺跡」(北日本)  
2008, 11, 29 「大手モール 環状線化で埋文調査」(富山)  
2008, 12, 17 「'08 史壇回顧 久保尚文」(北日本)  
2008, 12, 20 「平成はたち富山の新風景 36・富山城の石垣(富山市)」(富山)  
2008, 12, 22 「'08 考古学回顧 鹿島昌也」(北日本)  
2008, 12, 29 「抱石葬 県内で初確認 縄文前期 富山・小竹貝塚」(富山)  
2009, 01, 01 「富山城探訪」(北日本)  
2009, 01, 03 「富山城 藩政期に天守台 富山市埋文センター 盛り土を確認」(富山)  
2009, 01, 06 「二階櫓門 歴史を紹介 富山・郷土博物館で企画展」(富山)  
2009, 01, 07 「富山城探訪1(古川知明)」(北日本)  
2009, 01, 09 「富山城の歴史探訪(富山市郷土博物館)」(北日本)  
2009, 01, 10 「ふるさとの上空・富山市婦中町安田(安田城跡)」(富山)  
2009, 01, 10 「水橋で出土の盤 教科書に掲載(富山市考古資料館)」(北日本 夕刊)  
2009, 01, 12 「利長くんの高岡 400年10・高岡城跡③(古川知明コメント)」(富山)  
2009, 01, 19 「富山市郷土博物館 歴代藩主の書など展示  
(企画展「殿さま芸 - 富山藩主の教養」)」(北陸中日)  
2009, 01, 19 「古里歴史ロマン 小竹貝塚」(北日本)  
2009, 01, 19 「おさげ髪土偶(長山遺跡)」(北日本 夕刊)  
2009, 01, 21 「早川莊作さんの資料並ぶ・富山・北代縄文館で特別展」(富山)  
2009, 01, 23 「城下町の排水路遺構 富山・旅籠町発掘調査」(北日本)  
2009, 01, 25 「ゲーム。もちつき楽しく 北代縄文広場冬まつり」(北日本)  
2009, 01, 28 「富山城探訪4(古川知明コメント)」(北日本)  
2009, 02, 04 「富山城探訪5(古川知明コメント)」(北日本)  
2009, 02, 07 「企画展 王塚・千坊山遺跡群とその時代(6)一八町II遺跡  
(婦中埋蔵文化財資料館)」(北日本)  
2009, 02, 07 「富山・大手モール環状線化へ 埋文発掘調査始まる(堀沢祐一コメント)」

(富山)

- 2009, 02, 11 「富山城探訪 6 (古川知明コメント)」(北日本)
- 2009, 02, 16 「古里歴史ロマン 富崎墳墓群」(北日本)
- 2009, 02, 18 「富山城探訪 7 (古川知明コメント)」(北日本)
- 2009, 02, 18 「富山城 ネットで探訪」(北日本 夕刊)
- 2009, 02, 24 「社説 富山城研究 古里を見つめ直す契機に」(北日本)
- 2009, 02, 25 「富山城探訪 8 (古川知明コメント)」(北日本)

## 6 遺跡地図管理

富山市内の埋蔵文化財包蔵地の総数は1,020箇所、面積は69,273,513m<sup>2</sup>（平成21年2月末現在）です。これは富山市全域の面積1,241,85km<sup>2</sup>の約5.58%にあたります。これらの埋蔵文化財包蔵地は遺跡地図に登載され、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館、各教育行政センターで閲覧することができます。

- ①『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂版）1. 旧富山市域』平成17年4月
  - ②『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂版）2. 旧大沢野町・大山町・八尾町・婦中町・山田村・細入村域』平成17年4月
  - ③『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂2版）旧大沢野地域』平成19年3月
  - ④『富山市遺跡地図 埋蔵文化財包蔵地所在地地図（改訂2版）大山地域』平成20年3月
- 平成20年度の新規登録、遺跡範囲の変更等があった埋蔵文化財包蔵地は次のとおりです。

### (1) 新規登録遺跡（婦中地域分布調査以外）

- ①山田中瀬塚（No.363012）60m<sup>2</sup> 約7.6×7.1m、高さ約1mの方形の塚

### (2) 遺跡範囲の変更等（婦中地域分布調査以外）

- ①塙遺跡（No.301007）302,000m<sup>2</sup> 試掘確認調査による遺跡範囲の拡大
- ②内A遺跡（No.301041）9,300m<sup>2</sup> 試掘確認調査による遺跡範囲の拡大

### (3) 婦中地域分布調査

- ①新規登録

No.	遺跡名（遺跡番号）	所在地	種別	面積（m <sup>2</sup> ）	時代（時期）
1	藤原丸山遺跡（362160）	藤原字丸山割	散布地	1,100	平安
2	藤原丸山塚（362161）	藤原字丸山割	塚	30	室町
3	牛滑後山遺跡（362162）	牛滑字後山割	散布地	4,700	奈良・平安
4	道島前田A遺跡（362163）	道島字前田割	散布地	9,500	讃文、鎌倉～室町
5	道島前田B遺跡（362164）	道島字前田割	散布地	21,000	平安、鎌倉～室町
6	上野神明塚（362165）	上野字神明堂割	塚	40	中世～近世
7	外輪野小構遺跡（362166）	外輪野字小構割	散布地	9,500	讃文
8	下瀬前田遺跡（362167）	下瀬字前田割	散布地	5,300	鎌倉～室町
9	平等前田遺跡（362168）	平等字前田割	散布地	2,300	奈良～平安、鎌倉～室町
10	鶴谷向山遺跡（362169）	鶴谷字向山割	散布地	6,400	讃文（晚）
11	外輪野池田遺跡（362170）	外輪野字池田割	散布地	10,000	奈良～平安
12	上野前田・皆杓遺跡（362171）	上野字前田割、皆杓	散布地	3,300	鎌倉～室町
13	下瀬古墳敷B遺跡（362172）	下瀬字古墳敷割、鶴ヶ島割	散布地	3,200	讃文、古墳（中～後）、奈良・平安

### ②範囲変更、名称変更

1	362032	五ツ塚古墳群	面積5,500m <sup>2</sup> 北東側へ位置変更
2	362035	鏡坂I遺跡	面積81,000m <sup>2</sup> 東側に範囲拡大
3	362036	蓮花寺遺跡	面積48,600m <sup>2</sup> 南側に範囲拡大
4	362040	袋遺跡	面積8,800m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
5	362042	下邑東遺跡	面積447,000m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更

6	362045	小倉中稻II遺跡	面積 3,300 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
7	362048	千里B遺跡	面積 20,200 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
8	362049	千里C遺跡	面積 11,000 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
9	362067	下瀬古屋敷A遺跡	名称変更（旧称：下瀬遺跡）
10	363075	上池上遺跡	面積 48,000 m <sup>2</sup> 南北に範囲拡大
11	362091	牛滑天城遺跡	面積 14,500 m <sup>2</sup> 南東側に範囲拡大、名称変更（旧称：牛滑遺跡）
12	362092	道島・上野遺跡	面積 36,000 m <sup>2</sup> 東側に範囲拡大、名称変更（旧称：道島遺跡）
13	362129	翠尾I・南部I遺跡	面積 505,300 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
14	362132	鶴坂I遺跡	面積 113,900 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
15	362137	上吉川遺跡	面積 128,000 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
16	362142	千里D遺跡	面積 145,300 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
17	362146	小長沢II遺跡	面積 91,800 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更
18	362151	南部II遺跡	面積 3,600 m <sup>2</sup> 遺跡範囲の変更

## 7 研究

### (1) 小研究会（会場：埋蔵文化財センター会議室）

1. 細辻嘉門主任学芸員「奈良文化財研究所研修  
受講報告～掘立柱建物遺構調査課程について～」  
平成 20 年 7 月 16 日

2. 中村晋也氏（金沢学院大学准教授）

「出土木製品の保存処理」平成 20 年 7 月 30 日

3. 小林高太輔氏「中世集団墓の被葬者像について  
の研究」平成 20 年 12 月 11 日

4. 町田賢一氏（富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所）

「北陸の貝塚について」平成 21 年 1 月 28 日

5. 酒井英男氏（富山大学理学部教授）「遺跡での地震跡および火災跡の研究」  
の場茂晃氏（魚津市教育委員会）「魚津市仏田遺跡について」平成 21 年 3 月 12 日

6. 村田文夫氏（元川崎市立民家園長）「関東における縄文時代前期の様相について」  
平成 21 年 3 月 18 日

### (2) 論文・報告・紹介（2008.4～2009.3）\*富山市内の遺跡に関するものも含みます。

秋葉保香 2009, 3 「百塚住吉遺跡・百塚遺跡出土土器・土製品表面の赤色顔料について」  
『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書－主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う発掘調査報告－』 富山市教育委員会

五十嵐俊子 2009, 3 「杉谷の四隅突出墳」「海を越えての交流－杉谷 4 号墳と四隅突出墳』  
古沢校下ふるさとづくり推進協議会

伊藤雅文・岡村秀典・小黒智久・高橋浩二・橋本博文 2008, 10 「フォーラム第 2 部討論」  
『王塚・千坊山遺跡群国指定記念 平成 19 年度「婦負の国 弥生フォーラム」記録集』『婦負のクニ』成立のころ－四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へ－』 富山市教育委員会

大野英子 2009, 3 「婦負の四隅突出型墳丘墓」「海を越えての交流－杉谷 4 号墳と四隅突出墳』  
古沢校下ふるさとづくり推進協議会

小黒智久 2008, 5 「2007 年の考古学界の動向 古墳時代 北陸」『考古学ジャーナル』  
572 号 ニュー・サイエンス社

小黒智久 2008, 10 「越中の様相－四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へ－」「王塚・千坊山遺跡群国指定記念 平成 19 年度「婦負の国 弥生フォーラム」記録



- 集『婦負のクニ』成立のころー四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へー』富山市教育委員会
- 小黒智久 2009, 3 「百塚住吉遺跡・百塚遺跡のいわゆる出現期古墳が提起する諸問題」『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書ー主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う発掘調査報告ー』富山市教育委員会
- 鹿島昌也 2008, 12 「八町II遺跡の発掘調査」『富山史壇』第157号 越中史壇会
- 佐伯哲也 2009, 3 「掛煙城について」『富山市考古資料館報』第46号 富山市考古資料館
- 酒井英男・泉吉紀・正和沙里・岸田徹・鹿島昌也・野垣好史 2009, 3 「富山市小出城跡における歴史地震の影響の研究ー電磁気調査からのアプローチ」『富山市考古資料館紀要』第28号 富山市考古資料館
- 佐藤好司 2009, 3 「百塚住吉遺跡A地区・百塚遺跡A地区出土二重口縁壺形土器と土器祭祀」『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書ー主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う発掘調査報告ー』富山市教育委員会
- 島田亮仁 2009, 3 「小出城跡から出土した種実遺体群」『富山市日本海文化研究所紀要』第22号 富山市日本海文化研究所
- 下島健弘 2009, 3 「百塚住吉遺跡・百塚遺跡検出墳墓の築造順序と時代背景」『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書ー主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う発掘調査報告ー』富山市教育委員会
- 須山盛彰 2009, 3 「杉谷の今昔」『海を越えての交流ー杉谷4号墳と四隅突出墳』古沢校下ふるさとづくり推進協議会
- 高橋浩二 2009, 3 「婦負王墓盛衰史」『海を越えての交流ー杉谷4号墳と四隅突出墳』古沢校下ふるさとづくり推進協議会
- 藤田富士夫 2008, 3 『日本海を巡る玉文化交流』『日本海学の新世紀8総集編 日本海・過去から未来へ』角川学芸出版
- 藤田富士夫 2008, 5 「算術する縄文人—高度な数字処理の事例ー」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』No.6 敬和学園大学
- 藤田富士夫 2008, 6 「論点『三種の神器』勾玉の研究から考える」『歴史読本』新人物往来社
- 藤田富士夫 2008, 10 「『歩けオロジスト』と蒐集品」『考古学ジャーナル』No.577 ニュー・サイエンス社
- 藤田富士夫 2008, 10 「論文展望 縄文人の記数法と“算術”的発見」『季刊考古学』第105号 雄山閣出版
- 藤田富士夫 2008, 11 「『万葉集』巻十三の「沼名河之 底奈流玉」に関する一考察」『森浩一先生尊寿記念論文集 古代学研究』第180号 古代學研究會
- 藤田富士夫 2009, 3 「日本海を結ぶ四隅突出墳」『海を越えての交流ー杉谷4号墳と四隅突出墳』古沢校下ふるさとづくり推進協議会
- 藤田富士夫 2009, 3 「富山市茶屋町の文政八年鎮火碑と埋納品について」『富山市考古資料館報』第46号 富山市考古資料館
- 古川知明 2008, 7 「『櫓門新絵図』による富山城二ノ丸九二階櫓門石垣の復元」『富山史壇』第156号 越中史壇会
- 古川知明・高梨清志 2008, 9 「富山県の動向」『中世史・考古学情報』第7号 伊勢中世史研究会
- 古川知明・酒井重洋 2008, 12 「北陸中世のみち 越中国の様相」『第21回北陸中世考古学研究会資料集 北陸中世のみち』 北陸中世考古学研究会
- 古川知明・蓮沼優介 2009, 3 「五穀山龍高寺宝鏡印塔と砾石経の調査」『富山市考古資料館紀要』第28号 富山市考古資料館
- 古川知明・中村晋也・松浦正昭 2009, 3 「医王山東楽寺所蔵の仙蓋形水瓶について」『富山

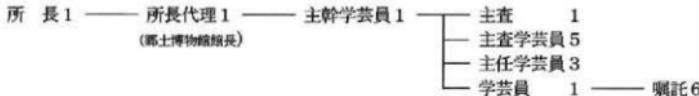
- 市考古資料館報』第 46 号 富山市考古資料館  
 古川知明 2009, 3 「「富山之記」にみる中世富山城・城下町」『富山史壇』第 158 号 越中史壇会
- 網辻嘉門 2009, 3 「百塚住吉遺跡・百塚遺跡の縄文時代晚期の土器について」『富山市百塚住吉遺跡・百塚住吉 B 遺跡・百塚遺跡発掘調査報告書—主要地方道富山八尾線道路改良事業に伴う発掘調査報告—』 富山市教育委員会
- 網辻嘉門 2009, 3 「婦負の弥生時代集落における土器様相」『富山市考古資料館紀要』第 28 号 富山市考古資料館
- 堀沢祐一 2008, 4 「古代越中国の律令祭祀について」『信濃』第 60 卷第 4 号通卷第 699 号 信濃史学会
- 村藤政雄 2009, 3 「糠塚の伝承」『海を越えての交流—杉谷 4 号墳と四隅突出墳』 古沢校下ふるさとづくり推進協議会
- 村藤政雄 2009, 3 「地域文化財としての四隅突出墳」『海を越えての交流—杉谷 4 号墳と四隅突出墳』 古沢校下ふるさとづくり推進協議会
- (5) 講演・研究発表
- 鹿島昌也 越中史壇会研究発表大会 「八町 II 遺跡の発掘調査」 平成 20 年 8 月 24 日 教育文化会館
- 鹿島昌也 富山市日本海文化研究所フォーラム—古代越中国 婦負郡を探る—「生産遺跡と仏教遺物からみた婦負郡」 平成 20 年 9 月 14 日 とやま市民交流館
- 藤田富士夫 尖石繩文考古館縄文文化大学講座 「縄文装身具の世界」 平成 20 年 10 月 11 日 尖石繩文考古館（長野県茅野市）
- 藤田富士夫 富山市日本海文化研究所公開講座—祭りと信仰からみた日本海文化—「諏訪大社の御柱を考古学する」 平成 21 年 2 月 24 日 とやま市民交流館
- 藤田富士夫 万葉古代学研究所「旅と万葉集」第 6 回共同研究会「旅と考古学」 平成 21 年 3 月 1 日 万葉古代学研究所（奈良県明日香村）
- 古川知明 富山考古学例会「医王山東楽寺探訪」 平成 20 年 5 月 3 日 富山市大山歴史民俗資料館
- 古川知明 大山歴史民俗研究会講演会 「東楽寺の宝篋印塔と礎石経」 平成 20 年 5 月 17 日 大山歴史民俗資料館
- 古川知明 東楽寺法要 「東楽寺の宝篋印塔の調査について」 平成 20 年 6 月 1 日 東楽寺
- 古川知明 富山大学教養講座とやま学—考古学からみたふるさとの歴史第 5 回 「中近世富山城を見直す」 平成 20 年 6 月 11 日 富山大学
- 古川知明 富山大学教養講座とやま学—考古学からみたふるさとの歴史第 6 回 「富山城下町を発掘する」 平成 20 年 6 月 18 日 富山大学
- 古川知明 北陸中世考古学研究会「遺跡見学（安田城、奥羽山古道、富山城）」 平成 20 年 7 月 13 日 富山城ほか
- 古川知明 第 3 回高岡埋文座談会 「富山城について—慶長期を考える—」 平成 20 年 11 月 22 日 高岡市立東部公民館
- 古川知明 北陸中世考古学研究会「北陸中世の道 越中国の様相」 平成 20 年 12 月 13 日 銀嶺
- 堀内大介 平成 21 年度富山考古学会総会「小竹貝塚発掘調査」 平成 21 年 1 月 31 日 富山市民プラザ
- 堀沢祐一 富山市日本海文化研究所公開講座—祭りと信仰からみた日本海文化—「日本海沿岸の古代祭祀～古代越中国を中心として～」 平成 20 年 6 月 30 日 とやま市民交流館

## 8 発掘調査報告書等（2008 年度）

通巻 No.29. 富山市鶴坂 I 遺跡発掘調査報告書(2008. 8)

- No.30. 富山市上新保遺跡発掘調査報告書(2009. 3)  
 No.31. 富山市北押川B遺跡・北押川C遺跡・池多東遺跡発掘調査報告書(2009. 3)  
 No.32. 富山市百塚遺跡・百塚住吉遺跡・百塚住吉B遺跡発掘調査報告書(2009. 3)  
 No.33. 富山市内遺跡発掘調査概要IV(2009. 3)  
 No.34. 富山城跡試掘確認調査報告書(2009. 3)  
 No.35. 富山市水橋金広・中馬場遺跡発掘調査報告書(2009. 3)  
 北代縄文通信 第25号(2008. 11)  
 北代縄文通信 第26号(2009. 3)  
 王塚・千坊山遺跡群国指定記念 平成19年度「婦負の國 弥生フォーラム」記録集  
 『婦負のクニ』成立のころ—四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へ—(2008. 10)  
 富山市の遺跡物語(富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報) No.10(2009. 3)

## 9 埋蔵文化財センター組織



### 事業費

- |              |           |
|--------------|-----------|
| ① 埋蔵文化財調査費   | 45,680千円  |
| ② 体制整備・一般管理費 | 107,344千円 |
| ③ 普及活動費      | 769千円     |
| 発掘速報展開催等     |           |
| ④ 遺跡・史跡保護管理費 | 15,176千円  |
| 北代縄文広場管理等    |           |

### 王塚・千坊山遺跡群国指定記念「婦負の國 弥生フォーラム」記録集販売のお知らせ

「四隅突出型墳丘墓を探る～首長と地域社会～」(平成18年度)、「『婦負のクニ』成立のころ—四隅突出型墳丘墓から前方後方墳へ—」(平成19年度)を販売しております。

購入希望の方は、タイトルと冊数を明記し、書籍代金(現金書留あるいは定額小為替)と送料(切手)を同封の上、当センター宛にご送付ください。

なお、この記録集は、富山市考古資料館、婦中埋蔵文化財資料館でも販売しております。

価格：1冊500円

送料：1冊210円、2冊290円

(3冊以上の場合は別途お問い合わせください。)

#### お申込み

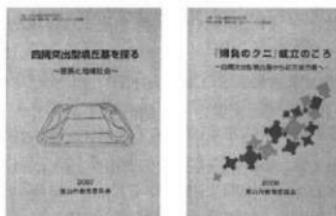
富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1-2-24

TEL 076-442-4246

FAX 076-442-5810

E-mail : maioubunka-01@city.toyama.lg.jp



## 研究余話！ 富山市蜆ヶ森貝塚の調査と土器研究略史

藤田富士夫

(埋蔵文化財センター所長)

### 1はじめに

富山市の北代地域に古くから知られた蜆ヶ森貝塚がある。遺跡地には白鬚神社が鎮座している。土器は縄文前期後葉「蜆ヶ森式土器」の様式となっている。私は昭和56年に遺跡の一部の発掘を担当し旧聞に過ぎるが昨年度にその概要を報告した(『富山市考古資料館紀要』第27号)。ここでは、その執筆のためメモしたものを作成して記しておきたい。

### 2 遺跡の調査略史

(1) 江戸期の知見 白鬚神社境内では早くから貝殻の散布が知られていた。享保年間に野崎伝助(不明~1731年)が著わした『喚起泉達録』には、「北ダイノ山ニスダメノ宮トイアリマタスマノ森トモ云モリノ中ニ小キ社アリ世人ノ流傳ニワ皆昔蜆貝舟ニツミ来リシニ此舟齋トナリシヲ宮屋シキトシタリコノ齋舟ノ形ニテ今も此森ノ中ニハシバミ貝ノカラ多アリト云フ」とある。野崎伝助は、流傳を確かめるため土を掘り起こしている。「ナル程流デシニタガハズ土ヲ掘バ舟ノナリニシシマミ貝ノ空アルナリ」と記している。つづけて、伝説を紹介し、蜆貝が蝶となって機織の比売(姉倉比売)の機を織るのを手助けしたとしている(資料集成編集委員会『喚起泉達録 越中奇談集 越中資料集成11』桂書房 2003年/163頁)。

この直後の享保18(1733)年の稿による『越中旧事記』(作者不明)にも「すずめの森」として「蜆貝を乗せた舟の話」が記されているが、所伝は『喚起泉達録』を底本としているようだ。

さらに文化年間に野崎伝助の孫である野崎雅明(1757~1816年)は、『喚起泉達録』を底本として『肯構泉達録』を著し、そこに「蜆が蝶になった話」を収録している。

遺跡に散乱する蜆貝を、舟で運ばれてきたとする伝説やその蜆貝が姉倉比売の機織を手助けし蝶となつて舞つたとする美しい伝説は、『喚起泉達録』の記述がもともと古い。江戸中期段階に、本来は存在しないであろう陸地での蜆貝散乱に対する流傳の一端を記録し、それを「土ヲ掘って」確かめたとする『喚起泉達録』の意義は大きい。

(2) 明治期以降の調査 茨城県人の吉田文俊は明治40年7月から3ヶ月間、越後、越中、加賀、越前を研究旅行し、その折りに富山市(当時、婦負郡長岡村)の「北代貝塚(蜆ヶ森貝塚)」を「発見」し、一部発掘を行っている。蜆ヶ森貝塚ではシジミやアカニシ、カキ、アサリなどの貝殻とともに骨角器や歯骨を認めている(吉田文俊「日本海方面の貝塚」『人類学雑誌』第33卷第4号 日本人類学会 1917年、斎藤隆「北代遺跡と吉田文俊」『富山市考古資料館報』No.5 1981年)。内陸に所在するこの貝塚について、「今日の富山湾は少なくとも貝塚の積成当時は此附近まで海水の浸す所であったに相違ない」と述べ、地形変化に关心を寄せている。

高岡の北浦忠雄が明治43年に「越中国北代村の貝塚」(『東京人類学会雑誌』第286号 1910年)で、貝層は一尺五寸余りの厚さがあると書いている。

昭和3年発行の東京帝国大学『日本石器時代遺物発見地名表 第五版』(岡書院 1928年)に「長岡村・北代・蜆ヶ森、白鬚神社内(貝塚)」とあり、出土品には「土器・打石斧・磨石斧・骨角器」が記されている。早川莊作の『越中史前文化』(中田書店 1936年)では、「森然たる樹木の裡に小祠あり、其境内一面に無数の貝殻が散在し、地下深く発掘しても尚累々層を成している。其中に石器、土器が混在する。貝は主に淡水産の蜆貝である」と、その様子を記す。戦後の昭和24年に発足した富山考古学会調査による「富山縣石器時代遺跡地名表」(森秀雄『大昔の富山県』清明堂書店 1951年収載)では、「長岡村 蜆ヶ森貝塚 石斧、曲玉、玦状耳飾、石鏃、凹石、石匙、土器、人骨、獸骨」と記されている。

湊晨・林夫門・森秀雄・高岡中部高校生徒による小発掘(2坪)が昭和23年8月10日に実施されている(森秀雄『大昔の富山県』清明堂書店 1951年／18頁。棚元理一・藤田富士夫「棚元日記にみる終戦直後の富山県考古学界の動向」『大境』第27号 富山考古学会 2007年)。羽状縄文を有する土器など多数が出土している。

富山大学教授高瀬重雄に率いられた富山大学考古学同好会による発掘が昭和28年に行われ、報告書(富山大学考古学同好会編『観ヶ森貝塚調査報告書』富山県教育委員会 1954年)が刊行されている。それは現在でも観ヶ森貝塚の概要を知ることのできる唯一の報告書である。

富山市教育委員会によって貝塚南端部の緊急発掘が昭和56年6月2日から12日まで行われ、土坑3基と貼り床遺構1基が検出されている(藤田富士夫「富山市観ヶ森貝塚発掘調査報告(昭和56年度)」『富山市考古資料館紀要』第27号 富山市考古資料館 2008年)。

### 3 観ヶ森式土器の研究歴史

出土土器は、今日、北陸の縄文前期後葉「観ヶ森式土器」の標式となっている。型式と編年の認定は、昭和25年11月2日～3日の東京大学理学部人類学教室の山内清男博士の来県が契機となっている(湊晨「富山県内新石器時代遺跡概観…山内先生に随行するの記…」『大境』第1号 富山考古学会 1951年)。林夫門が教諭を勤める高岡中部高校において観ヶ森式土器の観察がなされたという。その資料は昭和23年8月に行われた発掘資料を主としている。

森秀雄は『大昔の富山県』(清明堂書店 1951年／18頁)で、富山県の前期土器を編年し「朝日C式→観ヶ森式→吉峰式」を設定した。それぞれ関東の編年と比較し、朝日C式を黒浜式、観ヶ森式を諸磯A式、吉峰式を諸磯B式に比定している。山内博士来県に伴う型式学の知識に導かれたもので観ヶ森式土器の県内での研究が始まった。

高堀勝喜が北陸を担当する『縄文時代 日本の考古学II』(河出書房新社 1965年)の巻末編年表では、北陸の前期を「極楽寺式」「朝日C式」「福浦下層式」「観ヶ森式」「朝日下層式」と5型式に分けている。観ヶ森式土器は、諸磯C式併行に置かれ、前期後葉の編年觀として確立した。この図書は戦後考古学の到達点をなすものでその編年觀は今日の出発点となっている。

橋本正は「観ヶ森貝塚採集の遺物」(『大境』第2号 富山考古学会 1966年)で、表面採集した土器をA～G類に7大別し、それぞれを1～4類に細別して、観ヶ森式土器が多類から構成されることを報告した。

小島俊彰は、「北陸における縄文前中期の様相」(『信濃』第20巻第4号 信濃史学会 1968年／273～274頁)で、観ヶ森式土器には微隆起線文を主体とするものと太い隆線を貼り付けたものとがあるが、「現時点」での一括を説いた。後者の一群を東日本の諸磯B式、西日本の北白川III式に關連付け、浮隆爪形文について諸磯C式との関連を示唆した。

高橋修宏は、小島の見通しを受けて、観ヶ森式土器が微隆起線文系の「観ヶ森I式」と結節浮線文系の「観ヶ森II式」とに時間差をもって二分できることを提唱した(高橋修宏ほか『小泉遺跡』大門町教育委員会 1982年／84～92頁)。

\* これらの研究を経て、今日、関東地域の編年との対比では、「観ヶ森I式」と「観ヶ森II式」を諸磯b式古、諸磯b式新の範疇で捉えようとする見解が成されている(建石徹『日本の美術』496 至文堂 2007年／20頁)。

### 4 おわりに

ここに私の富山県内を主とした粗いメモを記した。もちろん観ヶ森式土器は、県内外(とりわけ石川県)の多くの研究者の検討によって深化してきた。ここに記せなかった研究史そして最新の到達点は小島俊彰「観ヶ森式土器」(『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年／298～303頁)に詳しい。さらなる向学の志はそれを必見していただきたい。

## 研究余話Ⅱ 富山市江本経塚の自然石板碑銘文

古川 知明

(埋蔵文化財センター主幹学芸員)

### 1 はじめに

富山市南部の常願寺川・熊野川扇状地には江本集落が位置する。この集落内には江本経塚が存在し、塚の頂部には梵字を彫り込んだ自然石板碑が1基置かれている。

この板碑は、1963年中村太一路氏や、1976年京田良志氏により調査・紹介された。梵字の下には刻銘があり、順主の名が記されているが、これまで全解説にいたっていない。本稿は江本経塚に存在する板碑についての考古学的な所見を中心に報告するものである。

### 2 研究史

中村太一路氏は、昭和38(1963)年『富南の歴史』に江本経塚を紹介した。それによれば「江本三ツ塚割に現存する経塚は、敷地二米四方、高さ八五厘、巾六〇厘、厚さ六五厘の石に、「順主」の二字と梵字が刻んであり、基部は埋もれてみえない。もとは稍離れた旧家の邸地内に埋まっていたもので、堀り起こした時、塚石の下から、法華経を一字宛刻んだ小石が筈に一杯出たという。その小石は、現在の塚石の下に又埋めてある。(中略)順主何某が、誰かの供養のためにつくったものである」とした<sup>(1)</sup>。

昭和40年には、『全国遺跡地図(富山県)』にNo.537「江本経塚」として掲載された<sup>(2)</sup>。

京田良志氏は、昭和52年6月12日の北日本新聞で江本経塚を詳しく紹介した。銘文は「順主当」「泓住」「口口」「亨禄四口口」と判読。泓は州の異体字、亨は享とし、享禄4(1531)年当州(越中州)住の口口(3行目の人名)が順主となって造立した川石製石塔とされた。また付近の塚根経塚で出土した一字一石埋納経との関連から、本経塚においても一字一石埋納経の存在を示唆した<sup>(3)</sup>。

昭和52年10月、江本経塚の東450mに所在する塚根経塚において発掘調査が行われ、その解明を巡っての座談会で、年代に疑問があること、一字一石經が移動するときに筈に入れて持ってきたという話がある一方で、塚自体は動いていない可能性があることが指摘された<sup>(4)</sup>。

平成元年の『熊野郷土史』では、江本経塚あるいは三つ塚経塚ともよぶ一字一石納経塚と示された。内容は京田氏のものと同じで、文末に京田氏教示との付記がある<sup>(5)</sup>。

関秀夫氏は、平成2年全国の経塚集成において、本経塚を「三塚経塚」の名称で掲載した。名称・所在地以外の内容は記載がない<sup>(6)</sup>。

平成6年刊行の『富山県の地名』では、江本経塚の解説があり、平成元年までの中村・京田両氏の見解を総括した内容となっている<sup>(7)</sup>。

平成15年戸簾暢宏・橋本正春氏は富山県内80基の経塚を集成し、江本経塚を中世の経塚として紹介した。遺跡立地を13に分類し、標高65mの扇状地上に立地する特徴を示した<sup>(8)</sup>。

平成20年橋本正春氏は富山県における経塚集成に本経塚を掲げ、「伝経石、板石塔婆刻字銘」と付記し、中世期経塚に位置づけた<sup>(9)</sup>。

### 3 江本経塚の概要

#### (1) 所在地

経塚は、金塚進午氏宅南西部の水田中に所在している。現在地番は江本420番地で、旧地番は江本字三ツ塚割883番地(明治初期は2198番地)である。

『富南の歴史』では、かつて同じ三ツ塚地内の別地点(旧邸地内)に経塚が存在し、現在地に移設されたとしているが、所有者の金塚進午氏によれば圃場整備以前から同地に所在していたとのこ

とである。圓場整備以前の旧公園によれば、經塚に該当する場所には半円形の「原野」が所在しており、その北側に接して東西方向の道と水路が通過している。この道は、東へ150mで青柳村を抜ける舟倉道、西へ150mで陀羅尼寺村から小黒村へ抜ける舟倉道と交差する。

地形的にみると、經塚は土川左岸の扇状地上にあり、標高は64mを測る。周囲の水田等には中小の礫が多く見られ、氾濫原であることがわかる。このことは、圓場整備以前の旧公園に水田周囲に「石」と書かれたエリアがいくつか認められ、洪水時に運ばれた巨石または水田から出た礫を廃棄集積した場所と推定されることからも理解される。

#### (2) 板碑の概要 (第3・4図)

板碑は經塚の墳頂部に立つ。現況では約25度東に傾斜するが、昭和52年の新聞に掲載された写真では約15度であり、近年傾斜が増したことがわかる。

石材は、礫岩あるいは安山岩礫砂を含む凝灰岩の河川転石で、節理が多い。斜めに埋まっているため全形が不明であるが、確認できる規格は、縦92cm、幅78cm、厚66cmである。正面及び頭部をノミ加工により整形しており、その他は自然面を残す。のことからこの板碑は自然石板碑と定義される。

現状の頂部の突起は、径15cm、高さ5cmで、上端はやや平らとなっているが、かつてはもう少し尖っていた可能性がある。

正面上部には、径33cm(1尺)の円形の窪みがあり、月輪を示す。窪みの深さは約4cmである。中央には梵字種子のパン(金剛界大日如來)が薬研彫で陰刻される。文字の大きさは24.5cm(8寸)である。

月輪の下には刻銘が4行ある。その訳文は「願主常口/忍住/口善/草様四年」である。「常口」「忍住」「口善」はそれぞれ人名とみられ、3人が連名で造立の願主として記されているものとみられる。常口は常以の可能性がある。忍住はシウジュウあるいはリジュウと読むとみられる。口善は「諂善」の可能性がある。

#### (3) 磨石経 (第5図)

經塚及びその周辺には中小の円礫がわざかに散布している。そ

番号	表面	裏面	石材	重量(g)	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)
1	□口	一	安山岩	74.0	4.9	5.2	2.1
2	秀?	□?	安山岩	33.4	3.8	4.2	2.1
3	兮?	一	花崗岩	90.5	5.6	5.3	2.7

表1 磨石経属性表

の内扁平平滑な小石10点余を探

集し水洗したところ、磨石経とみられる墨書のある小石が3点検出された。いずれも解説不能であるが、表に1文字から2文字以上の漢字、裏にも文字が書かれているとみられる。赤外線観察を行ったが、明瞭な文字はいずれの石からも確認できなかった。

本經塚には、他地点から出土した磨石経が埋めてあるという中村氏の報告があるが、金塚氏は当初から現在地であるという。いずれの主張が正しいかは現時点では不明であり、後日の調査に期待したい。なお仮に磨石経の埋納があったとすれば、本經塚の周囲は耕作のため削られている(特に北側が著しい)ことから、その過程で封土内の磨石経が周囲に散布したものと推定される。

#### (4) 板碑造立者の検討

板碑に記された願主名は、2文字で構成され称号等がないことから、願主3人は在俗出家者と考えられる。本板碑はかなり大型であることから、この造立には多額の出費を必要としたと推定され、これを3人で分担するにしろ、願主らはかなりの富裕層であったとみられる。

板碑の銘文情報からは、造立の目的・趣旨は判読できない。月輪内に彫られた梵字パンの存在から、金剛界大日如來を主尊とする真言密教色が濃いと考えられる。

江本經塚周辺の寺院分布をみると、北には陀羅尼寺、真言宗龍高寺、浄土真宗安国寺、西には曹洞宗瑞泉寺、浄土真宗伝長寺、南には浄土真宗性宗寺、旧大安寺(現在西方寺)東には真言宗龍高寺末寺円城院が存在し、それらはいずれも半径2km以内に所在する。伝長寺や妙伝寺はもと真言宗と伝える。いずれの寺院かは特定できないが、真言寺院の一つが導師となって石塔造立に関与した

可能性が推定される。

#### 4 街道と経塚（第6～8図）

江本経塚は、布市集落の南方に位置する。布市は、南北朝期越中守護桃井直常が拠点とした地域で、「野の市」、市町として起源を持つという由来地名<sup>(10)</sup>、あるいは有力な密教寺院が集合する宗教施設群の形成などの発展をとげたのは、中世以来ここが主幹的な交通経路上に位置していたことによる。布市は、富山町から飛騨へ向かう飛州（飛騨）街道の通過点で、また立山へ向かう立山信仰道への分岐点でもあったことから、交通の要衝であることがわかる。

飛州街道は別名舟倉道・小黒道と呼ばれ、布市からまっすぐ南下して神通川へ入る道で、熊野川を渡河した小黒、船岡丘陵の奥津城、式内社舎倉比売神社の門前町とみられる舟倉を通す。

富山町発の立山道は、龜川に沿って南行する亀谷道が最短で岩崎寺に至るが、このほか布市を経る黒牧道・長棟道・舟倉道からも東へ延びる立山道が複数本交差し、花崎村経由で岩崎寺に至る。

また、布市から福沢を経由し、熊野川上流から長棟鉱山へ抜ける長棟道が存在し、福沢道とも呼ばれた。

「月岡村花崎村等絵図」（富山県立図書館蔵）は、龍高寺が火災移転した文政7年以後の状況を示した絵図である。これによれば、布市南方の長棟道と舟倉道の分岐点には「追分塚」があり、龍高寺前の「黒牧道」を南行すると暫くして富士山の形をした富士塚<sup>(11)</sup>があり、さらに行くと「夫婦石」がある。これらのうち、富士塚は近年まで盛土状の高まりが現存し、明治末の地形図でも形状が確認される。追分塚・夫婦石は現存せず詳細は不明である。

塚根経塚からは礫石経が多數検出された<sup>(12)</sup>。法華経書写を行ったもので、年代は中世か近世のいずれにおくべきか議論がある。この経塚からは線刻による月輪を表した自然石が出土しており、これが築造年代を示す資料と理解されたが、このような月輪のみを彫った14、15世紀の中世板碑例ではなく、年代的位置づけを与えられないでいる。類似した線刻による月輪を持つ例としては、藤塚神明神社境内の自然石石標がある。月輪の下に「神明」と陰刻があり、天和元年（1681）の記年銘が認められる（第7図）。のことから塚根経塚の下限をその頃に置くことは可能である。この経塚の位置を明治44年地形図や旧公図で確認すれば、長棟道の沿線に位置した姿が復元される<sup>(13)</sup>（第8図）。

江本経塚は、長棟道から西へ分岐した舟倉道付近に所在する。塚根経塚と異なり、この幹道には面しておらず、西へ150mほど離れている。一方江本経塚の南側には、舟倉道と陀羅尼寺經由舟倉道を東西に繋ぐ道が存在し、この経塚に接する。

この江本経塚には、元の位置から動かされたという話も伝わる。発掘調査で検証するしかないが、元の候補地としては地割図内の「石」と明記された地点があげられる。この地点はちょうど長棟道から分岐した舟倉道と、東西道の結節点にあたり、塚根経塚に似た環境といえる。現存しないため、別の経塚であるか、あるいは江本経塚の元の位置であるかどうかについて検証を行うことはできない。

このほか周辺地域には、経塚をはじめとする信仰に関係した封土構造物・石造物が多い。これらは幹道に面して構築されるという共通した特徴があり、そのことは京田氏も指摘している<sup>(4)</sup>。立山信仰との関連も推定されるが、それらの性格は多様である。

#### 5 おわりに

私の野帳記録によると、昭和60年5月に初めてこの経塚を訪れている。土地所有者である金塚進午氏の立会のもと、現地で故京田良志先生が細かに説明された記憶がある。当時はこのような板碑は考古資料という意識がなかったので、簡単な図と説明書きを書き記しただけであり、その他いろいろ話されたことがあったはずであるが思い出せない。その後京田先生の添削を受けた解説板と、金塚



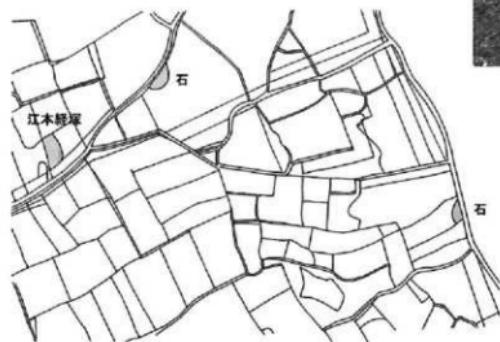
第1図 江本経塚(1) 塚根経塚(2)位置図 (1:25000)  
明治44年地形図



1977年撮影の江本経塚 (藤田富士夫氏撮影)



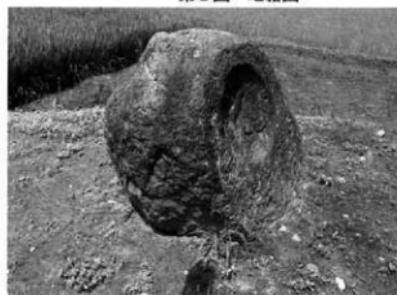
江本経塚現況 (北から)



第2図 地籍図



経塚上の自然石板碑 (正面)



自然石板碑 (左側面)



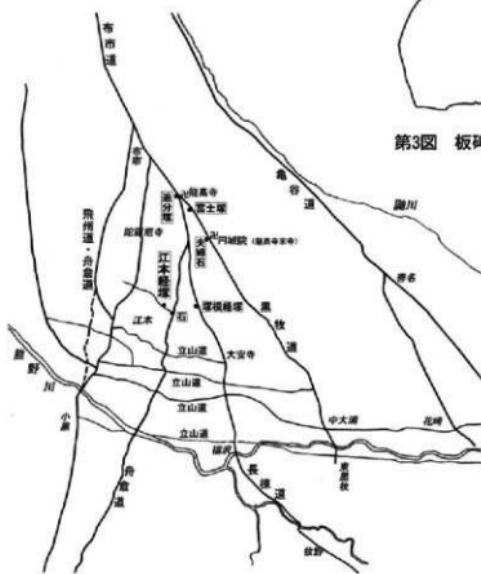
第4図 板碑拓影 (1:5)



月輪内梵字種子「パン」



第3図 板碑実測図 (1:10)



第6図 江本経塚と周辺の街道



第5図 磯石經実測図 (1:2)

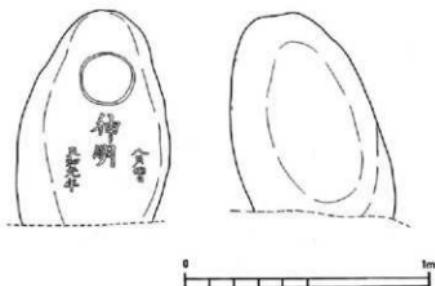
宅の前に標柱を設置し、幾度かの立替えを経て、現在に至っている。

その間学術的な調査研究は進展しておらず、この報告においても現況の地形測量図すらないといった状況であるが、近年中近世石造物の調査を始めたところ、この江本經塚の板碑が思い起こされた。昭和52年の京田良志氏の新聞報告や、同年の市教委による塙根經塚の発掘調査でひととおり性格・年代が論議されたものの、その後今日まで約30年間、銘文はなお未解読で、気がかりであった。今回の報告はその課題解明のための第一歩である。

この報告にあたり、金塚進午氏には過去の経緯など多くのご教示を得た。藤田富士夫氏からは経塚旧状の写真を提供いただいた。金沢学院大学中村晋也准教授には疊石経の赤外線観察に際しご協力を得た。記して感謝申し上げる。

#### 注

- (1) 中村太一郎 1963 『富南の歴史』
- (2) 文化庁編 1970 『全国遺跡地図(富山県)』
- (3) 京田良志 1977 北日本新聞昭和52年6月12日付こころ欄『野外に据える仏教遺物 富山・江本經塚』
- (4) 石村喜英・京田良志・山内賛一・藤田富士夫 1978 「座談会 塙根經塚をめぐる諸問題」『富山市塙根經塚発掘調査報告書』富山市教育委員会
- (5) 中村太一路監修執筆 1989 『熊野郷上史』熊野校下自治振興会
- (6) 關秀夫 1990 『經塚の諸相とその展開』雄山閣出版
- (7) 高瀬重雄監修 1994 『日本歴史地名大系第16巻 富山県の地名』平凡社 「江本村」項
- (8) 戸簾暢宏・横木正春 2003 「富山県の經塚」『富山大学考古学研究室論集 暢氣樓一秋山進午先生古稀記念一』秋山進午先生古稀記念論集刊行会
- (9) 横木正春 2008 「富山県經典関係考古資料」『吾々の考古学』和田晴吾先生還暦記念論集刊行会
- (10) 繕川校下史編纂委員会編 1968 『繪川の郷土史』
- (11) 『全国遺跡地図(富山県)』にNo.517「富士塙古墳」として掲載され、『富山市遺跡地図』1976年版に「すもうとり塙」の呼称があるとする情報が追加された。
- (12) 富山市教育委員会 1978 『富山市塙根經塚発掘調査報告書』
- (13) 地形図による復元では福沢道の西側に接していることになるが、『富山市塙根經塚発掘調査報告書』によれば、圃場整備以前の地割図の復元から、福沢道の東側に接して存在したとされる。



第7図 塙根新明神社境内の自然石石標 (1:20)



第8図 塙根經塚と長棟道跡  
(注 (12)文献地図に加重)

小松 博幸  
(埋蔵文化財センター兼  
大山歴史民俗資料館主査学芸員)

### 1 有峰の狛犬の概要

狛犬は主に神社の入り口や拝殿の前などに置かれている1対の獣の形をした像のことである。原形はライオン(獅子)像といわれエジプトから中国や朝鮮半島を経て、平安時代には日本に伝わっていたようである。日本では守護と魔除のために置かれており、2体で対(1組)になっている。一方は口を開け、もう一方は口を閉じ「阿吽」を表し、神社特有のものではなく寺院にも置かれている。

現在一般的に両方の像を合わせて「狛犬」と称することが多いが、厳密にいうと口を開けて頭上に角を持たない方が獅子(阿像)で、口を閉じ頭上に角を持つ方を狛犬(吽像)として区別する。平安時代の初期(9世紀)にはこの組み合わせがみられるという。

有峰の狛犬は、明治時代の後半には有峰村の東谷宮に4対(8体)が祀られていた。1社に4対もの狛犬が祀られた理由は分からぬ。4対には対ごとにサル・シシ・クマ・ヌエと通称があるが、いつ頃からどの様な理由でつけられたのかはつきりとしない。

シシの吽像は角を有し狛犬をあらわしている。サルの吽像は、現在では角は無いが頭頂部に角をはめ込んだ跡のような四角い穴があり狛犬であったことが分かる。シシとサルは狛犬と獅子の組み合わせで古い様式を伝えているが、クマとヌエの2対には吽像に角がなく痕跡も見られない。それぞれ一木造で、高さが50cmほどで重さは5~10kg前後である。



通称 サル



通称 シシ



通称 ヌエ



通称 クマ

## 2 有峰の狛犬の流転

大正時代に富山県の電源開発計画により有峰村所有の1万3千町歩が県に買収され、村に住んでいた12戸の人々が大正10年(1921)頃、離村することとなった。このとき有峰の狛犬4対は東谷川と西谷川の合流地点に程近い東谷宮の本殿見世棚に置かれていた。富山の銀行家が狛犬2体を購入することになっていたが、愛知県名古屋市の登山家伊藤孝一は、4対全部を買い取った。後に狛犬は長野県の燕山荘経営者の赤沼千尋が保管してきたが、昭和29年(1954)に伊藤孝一が没し昭和36年松本市立博物館に寄附された。

時を経て平成8年(1996)頃より、富山市(旧大山町)関係者から狛犬が故郷に返還されることを求める動きが高まりだした。平成11・12年度には、富山市(旧大山町)歴史民俗資料館において一時帰還展示(特別展 よみがえる有峰の狛犬と歴史・文化)を行った。

平成12年7月には松本市の厚意により狛犬4対が譲与され、有峰村解村から半世紀以上を経て旧地の大山に帰ってきた。同年の9月には旧大山町指定有形民俗文化財「有峰狛犬」(以下 有峰狛犬)となり平成17年度からは新富山市へ引き継がれ、現在は大山歴史民俗資料館(富山市龜谷1番地)にて展示されている。

## 3 有峰狛犬の制作年代と材質

有峰狛犬はそれぞれの異なった外見や傷み具合から4対は別々の時期に造られたものと想定していたが、確かな制作年代を調査するため放射性炭素年代測定を行った。また、材質の調査も行ったところ結果は以下のとおりである。

- ・サル 1334年頃 鎌倉時代末期：ヒノキ科(ヒノキ属・アスナロ属)の一種
  - ・シシ 1452年頃 室町時代中期：軟松類(軟松類の代表的なものはヒメコマツ)
  - ・ヌエ 1531年頃 室町時代後期：軟松類
  - ・クマ 1814から1879年頃 江戸時代後期から明治時代前期：モクレン属の一種
- サルからシシ・ヌエは、ほぼ百年ごとに造られていたようにみえ、ヌエからクマが造られるまでには約三百年の時が経過している。

## 4 おわりに

明治43年(1910)刊 日本山岳会五周年記念誌「山岳」に辻本 満丸が有峰狛犬について記述している部分を紹介したい。

「東谷、西谷二川の合流點間近には、一團の森ありて此處に東谷宮を祀る、即ち有峰村民の氏神なり、拝殿に入るに日露戰役の絵草紙など、羽目に貼り付けられたる外、之と云うものも無けれど、其後方には間口一間許りの三小社相並びて鎮座します、中央なるは東谷の本宮なるべし、左なるは津島宮、右なるは神明宮と扁額したり、此三社の廟前には、頗る珍奇異様なる狛犬状のものを、一對づゝ安置せり、孰れも木彫りにて、高さは一尺五寸許りに過ぎず、風打雨淋幾星霜をか経たりけん、木目は著しく凹凸を呈し、其或者は甚だ破損せり、考古学者に一覧せしめば興味あるものならんと思はれぬ」

有峰狛犬をみた時の辻本 満丸の興味と好奇心が伝わってくるようである。

有峰狛犬4対は、数百年に渡って受け継がれ有峰の人々の生活や風土を見てきた。制作者や村人達はこれらの狛犬にどの様な気持ちを込めていたのだろうか。守護や魔除けのためだけではなく、村の貴重な食料を食い荒らす動物を退治したいとの願いと、自然や豊作に対する思いなども込められていたのではないだろうか。村は今では有峰ダムの完成により湖底に沈んでいるが、有峰の地で人々が生きてきた証の一つである有峰狛犬をこれからも大切に後世へ伝え、多くのの方々にご覧いただきたいものである。

## 巻末言 富山市の埋蔵文化財調査黎明期のころ

藤田富士夫

(埋蔵文化財センター所長)

富山市が最初に、考古学専攻の職員を採用したのが昭和47年(1972)であった。それは専門職員の県内市町村の第1号であった。その頃に採用されたものは「団塊の世代」に属し、考古学では“第1世代”と称されている。その世代がいま定年年の時期を迎えている。かく言う私は、本誌が配布されるころには既れて「町人学者」の1人となっているはずである。

富山市が文化財行政に専門職員の意義を認めて配置した最初が昭和40年(1965)であった。後に初代文化財(年度によっては文化)係長となった本庄清志氏(民俗学)である。その頃から開発の波が列島各地に押し寄せ、富山市も例外でなかった。

○昭和42年・出現期古墳の“ちょうちよう塚”が採土され、岡崎卯一、京田良志の両先生が担当して調査が行われた(藤田富士夫・駒見和夫「ちょうちよう塚の概要と若干の考察」『大境』第7号・富山考古学会1981年)。

○昭和43年・呉羽山公園整備企画の一環として金草第1号窯跡が発掘された。調査は岡崎先生の指導で行われ、労働力となつたのは早稲田大学で考古学を専攻する今井清、立命館の舟崎久雄氏のほか、高校生の橋本正春や人々忠義、森雅志氏などであった。大学2年生であった私も参加していた。『富山市金草第一号窯跡調査報告』(富山市教育委員会 1970年)は、岡崎先生と私が担当したもので富山市の報告書第1号となった。

○昭和45年・用水路敷設のための予備調査が小竹貝塚で行われた。小島俊彰、氏淑子といった県内研究者に加えて島浜貝塚の調査で知られる福井県の森川昌和氏も参加した。森川氏は、本庄氏の先輩で遠路応援に駆けつけたのであった。

○昭和46年・縄文の大遺跡である古沢遺跡を対象とした場整備計画が持ち上がり、試掘調査が岡崎先生によって行われた(藤田富士夫「富山市古沢遺跡発掘調査報告(昭和47年度)」『富山市考古資料館紀要』第27号・富山市考古資料館 2008年)。

他にも悪王寺遺跡(昭和44年・岡崎卯一「富山市悪王寺遺跡の試掘」『連絡紙』第33号・富山考古学会1969年)や松崎山の横穴(昭和46年・藤田「松崎山に八世紀ごろの横穴古墳」の顛末)『富山市池多南遺跡・池多南II遺跡発掘調査報告書』(富山市教育委員会 2005年)などがある。

このような時期に富山市教委社会教育課から依頼されて手弁当で調査されていたのが岡崎卯一(当時・立山町町誌編纂室)や京田良志といった考古学を学んだ高校教師の方々であった。お2人とも余暇の多くを発掘に費やしていたが、本務をもちながらの調査には限界があった。このため事務担当の本庄氏から埋蔵文化財専門職員配置の必要性が説かれた次第である。ここに記して備忘としたい。

富山市教育委員会 埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第10号

平成21年3月30日

編集・発行 富山市教育委員会 埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町1丁目2-24

TEL 076-442-4246 FAX 076-442-5810

URL <http://homepage2.nifty.com/kitadai/> (北代誌文広場と兼用)

E-mail maizobunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷 中央印刷株式会社